

# 学報

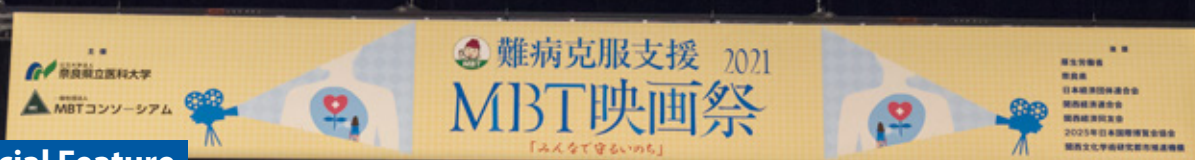
NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **79** 2022  
冬号

Special Feature

理事長・学長からの  
メッセージ vol.22

難病克服支援  
MBT映画祭を  
開催しました



# Contents

<b>特集</b>	理事長・学長からのメッセージ vol.22	3
	図書館だより	8
	MBT 研究所だより (第 23 報)	9
	先端医学研究支援機構だより	10
	国際交流センターだより vol.6	12
	未来への飛躍基金だより	14
	スキルスラボからのお知らせ	15
	看護部の紹介	16
	働き方改革だより	17
<b>Topics</b>	患者状態適応型パスシステム (PCAPS) の院内見学の現状について	18
	「新たな時代を切り拓く『奈良人 (ならびと)』に選ばれて」一法人化第 1 期中期計画で目指したこと	19
<b>Campus News</b>	令和 3 年度奈良県立医科大学白樺生祭を開催しました	20
	奈良臨床漢方医学セミナー (呼吸器領域編) を開催しました	20
	樺原ロータリークラブ様より 49 型テレビ等を寄贈いただきました	20
	日経クロスヘルス EXPO2021 にて特別セッションを実施しました	21
	「MBT 難病克服支援キャンペーン」について討議しました	21
	CareTEX 大阪 '21 にて MBT 講演をしました	21
	V-iClinix 講座第 7 回運営委員会を開催しました	21
	第 59 回全国自治体病院学会 in 奈良において看護・看護教育分科会を担当しました	22
	大和平野中央スーパーシティ構想に MBT が参画しています	22
	「職場のダイバーシティ推進研修」を実施しました	22
	日本蘇生学会の特別企画で「MBT 映画祭関連セミナー」を実施しました	23
	高度医療技術修得者の認定証交付式について	23
	人材交流在宅看護教育プログラムの履修証明書を授与しました	23
	第 2 回難病克服支援 Web セミナーの企画調整を行いました	23
	令和 3 年度第 2 回キャンパスミーティングを開催しました	24
	医学部医学科「Student Doctor 認定証・白衣授与式」を行いました	24
	災害対策本部訓練を実施しました	24
	奈良県ドクターヘリ広報用パンフレットを発行しました	24
	MBT ウエルシア薬局 健康ステーションを開催しました	25
	高大連携教育を推進しています	25
	大和平野中央スーパーシティ構想第 1 回検討会が行われました	25
	奈良県研究開発支援事業に採択されました	26
	難病克服支援 MBT 映画祭について討議	26
	株式会社 MBT 保健医療衛生研究開発機構を 奈良医大発ベンチャー企業に認定しました	26
	本学の MBT の取り組みに寄附いただきました	26
	難病克服支援 MBT 映画祭を開催しました	27
<b>Winner Report</b>	第 29 回日本組織適合性学会大会にて学術奨励賞最優秀賞を受賞しました	28
	第 233 回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞 (優秀演題賞) を受賞しました	28
	第 233 回日本内科学会近畿地方会において医学生セッション発表賞を受賞しました	28
	第 83 回日本血液学会学術集会以て日本血液学会奨励賞を受賞しました	28
	第 25 回日本神経感染症学会総会・学術大会で最優秀口演賞を受賞しました	29
	第 45 回リザーバー & ポート研究会 で優秀演題賞を受賞しました	29
	第 137 回中部日本整形外科災害外科学会にて学会奨励賞を受賞しました	29
	厚生労働大臣表彰を受けました	29
	前立腺研究財団研究助成 最優秀課題賞を受賞し成果報告を行いました	30
	第 26 回日本小児麻酔学会において最優秀演題賞を受賞しました	30
	IJCO 優秀論文に選出され、第 21 回日本癌治療学会研究奨励賞を受賞しました	30
	第 47 回神経内分泌学会学術集会以て臨床神経内分泌ポスター最優秀賞を受賞しました	30
	2021 年度日本医師会医学研究奨励賞を受賞しました	31
	第 69 回日本化学療法学会西日本支部総会学生セッションで優秀賞を受賞しました	31
	武田特定研究助成に採択されました	31
	令和 3 年度奈良県医師会学術 奨励賞の受賞者が決定しました	31
	11.4-7 第 29 回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2021 KOBE)	32
	厚生省の指標に掲載された論文が川井記念賞 (旧 厚生統計研究奨励賞) を受賞しました	33
	第 107 回北米放射線学会 (RSNA) の Education Exhibit において Certificate of Merit を受賞しました	33
	医学教育等関係業務功労者表彰	33
	国際ソロプチミスト奈良—あすか女性研究者賞を受賞しました	33
	令和 3 年度外部資金獲得状況	34
<b>Information</b>	公開講座情報	38
<b>寄附者ご芳名</b>	「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございます	39
	メディア掲載情報	40
	編集後記	40

## 奈良医大が全国に存在感を示すために

学長としての取り組みを皆様と共有することによって、私の考えをご理解いただき、次への飛躍を共に考えていただければと思っています。本号では、奈良医大・MBTコンソーシアムが日本経済団体連合会（経団連）の地域協創アクションプログラムの連携先となったこと、奈良県からの1億円の補助金を得て世界に先駆けた次世代手術法に取り組むことを紹介するとともに、学長2期目後半の主な取り組みを一覧によってお示しいたします。

### 1. 奈良医大・MBTコンソーシアムが 経団連とタイアップしMBT活動を全国展開

私がMBTの前身である住居医学を発想した2004年から数えて17年が経過し、MBTコンソーシアムの参加企業は全国全業種から226社となりました。また、MBT活動は経団連の地域協創アクションプログラム10項目のうちの一つになりましたので、今後は奈良（奈良医大）と東京（経団連）をベースに産医連携の全国展開を図って参ります。

#### 地域協創アクションプログラム (詳細版)



2021年11月16日

一般社団法人  
日本経済団体連合会

#### 9 医療・育児・介護・移動など健やかで快適な暮らしの基盤を協創する

連携先	内容・目標
MBTコンソーシアム 奈良県立医科大学	<b>【MBTコンソーシアム・奈良県立医科大学】</b> ・医学を生かした地域産業創生や商品の開発とその拡大による産医連携の全国展開 <b>【経団連】</b> ・コンソーシアムの取り組みやイベントに関する周知、企業の紹介

MBTコンソーシアム：奈良県立医科大学と連携し、医師や医学者が持つ医学の力を民間企業に導入し、新産業創生・まちづくりを行う一般社団法人。

### 2. 奈良県からの1億円補助金（総額1億5000万円）による 次世代手術法の開発

奈良県の研究補助金1億円に応募するために、DMG森精機の森社長に企業負担分5000万円をお願いし快諾していただきました。医療機器の開発を伴う大きなテーマが良いと意見が一致し、通常手術、内視鏡手術に次ぐ、第3の手術として期待されている「超音波ガイド下手術」をテーマとすることになりました。そこで、整形外科の田中教授、仲西講師と森精機、奈良精工の研究陣、奈良医大の研究推進課が協力して計画書を作成し、採択されました。

## 3. 学長2期目後半の主な取り組み

(2019年9月2日～2021年9月1日)

(記号や文字色の説明)

- ：2期目前半までに始めた事業 黒字：2期目後半の進展  
(注) 2期目前半までに完成した事業、継続中だが特記すべきことがない事項は掲載していません。
- ：2期目後半に開始した事業
- ★：他学ではあまり行われていない、独自のアイデアに基づくユニークな事業や先進的な事業

### 1. 教育

- ★ **臨床英語日本一を目指した英語教育改革**  
進展▶ 英語で行う医学教育の推進  
英語で学ぶ医学・看護学アドホック委員会の設立、活動開始  
臨床英語講座 weekend intensive コースに120名が参加  
「第1回 英語で学ぶ医学・看護学 WEB セミナー」2021年9月10日ミシガン大学からの免疫学講義決定
- **関西公私立医科大学・医学部連合の結成：連合によって奈良医大単独ではなし得ない事業の達成**  
進展▶ 卒業試験の共通化本格実施、コロナ下における教育方法や式典などの情報交換
- ★ **海外や国内の有名研究機関での学生実習(リサーチクラークシップ)**  
進展▶ ミシガン大学での研究成果：5回生の論文(共著)がCell誌(IF=36.216)に、5回生と4回生の論文(共著)がNature microbiology (IF=14.3)に掲載  
国立感染症研究所での研究成果：6回生の論文(共著)がThe Journal of Clinical Investigation (IF=12.282)に掲載
- ★ **大学祭の学外実施(イオンモールなど)など特徴ある大学祭を学生と検討**  
進展▶ MBT 難病克服キャンペーン映画祭活動を大学祭と共同で行うことが決定
- ★ **入学式や白衣授与式における保護者説明会等(保護者とのコミュニケーションの充実によるマッチング率の向上)**  
進展▶ 保護者説明会、医学科6年生の全保護者に対する学長書簡(卒後教育における奈良医大の魅力の伝達)内容の充実  
保護者への働きかけは以下に示すマッチング結果に好影響を及ぼしていると推察  
2020年4月からの研修医マッチング:奈良医大定員充足率100%(全国1位)、奈良県の充足率100%(全国1位、マッチング史上初めて県単位で100%)  
2021年4月からの研修医マッチング:率は87.3%と低下したが、奈良県で前期研修を行う医師の数は昨年より8名多い129名と過去最大  
進展▶ 医学教育機関別認証評価  
2015年度医学教育分野別認証評価結果に基づき、継続的に教育改革を実践し、2020年には医学教育機関別認証評価を受け認証された。
- **新規▶ 新型コロナ禍の中での教育**  
新型コロナ禍の中で徹底した感染対策のもとに最善の医学・看護教育を実践
- ★ **新規▶ アントレプレナーシップ育成**  
「新しい事業分野を切り開くために必要な、想像力や発想力、行動力、チャレンジ精神、リスクを恐れない勇敢さ」を意味するアントレプレナーシップを持った学生を育成する目標を掲げ、教職員に起業を奨励  
MBT 特命教授(矢野博丈・ダイソー創業者、森雅彦・DMG 森精機社長) 講義
- ★ **新規▶ 反転授業の導入促進**  
授業前に自宅学習し、授業では演習や議論を行う授業形態を一部で採用
- **新規▶ 感染症教育の充実の基礎を構築**  
文科省補助金(感染症医療人材育成事業、1億136万円)に採択。感染症センターの教授選考手続きを開始
- **新規▶ 臨床数学の開講(教養教育)**  
高校からの延長としての数学を臨床に即した内容に改変
- ★ **新規▶ 医療人育成機構の創設**  
良き医療人のシームレスな一体的育成のための組織を創設
- **新規▶ メンター制度の設計**  
学生の学習支援、自己学習力啓発を目的にメンター制度を導入
- **新規▶ シミュレーターを用いた高度な臨床教育**  
最新型のシミュレーターを設置、臨床実習で使用開始

## 2. 研究

- **けいなんなRC (文科省・JSTの大型プロジェクト) にオーガナイザーとして参加し、各研究所と共同研究**

進展▶ 文科省・JSTから川崎RC (慶応大学中心) や神戸RC (理化学研究所中心) を上回る高評価を獲得

- **優秀な研究者の育成支援、科研費獲得支援、若手・女性・医療スタッフの研究支援**

進展▶ 論文数の増加 2018年の335本に対し、2019年は495本と1.48倍に増加

進展▶ 科研費獲得額の増加 科研費獲得額は新規継続合わせて、2019年度は213件(2億8460万円)、2021年度は253件(3億3770万円)と顕著な増加

		年度	2021	2020	2019	2018
新規・継続の 合計	件数(件)		253	229	213	194
	金額(千円)		337,700	323,500	284,600	271,200

- **新規▶ 奈良先端科学技術大学院大学との連携進展**

奈良先端大との交流会や共同研究助成を通じて連携活性化を行った結果、共同研究の件数が増加

- **新規▶ 奈良県と県内市町村の事業に貢献**

奈良県と県内の保健・医療・介護事業に関する計画の策定や調査研究に貢献

- **★ 新規▶ 研究成果の社会還元のため研究者の起業を支援**

2021年7月MBT微生物学研究所株式会社設立(奈良医大発ベンチャー)

- **新規▶ 基礎研究医プログラム(厚労省)**

臨床研修における基礎研究医プログラム(厚労省)に応募し採択。一般の募集定員枠とは別枠で2名増員(全体で40名枠)が決定(科研費獲得額が評価された。)

- **新規▶ 厚生労働省の女性医療職等の働き方支援事業(研究支援)に応募し採択**

- **新規▶ 先端医学研究支援機構設置**

研究活動における総合的な支援を行うため、研究力向上支援センター、医学研究支援センター、産学官連携推進センターからなる先端医学研究支援機構を設置。新たにURA、専門技術職員を配置

- **新規▶ 大学の研究や技術が軍事目的に使用されることのないよう、安全保障輸出管理制度を導入**

- **新規▶ MBTやコロナ関係は総合欄に記載**

## 3. 診療

- **★ 全国から医師を集める制度(外科マスター、ドクターNなど)**

進展▶ 外科マスター医が7名に増加

- **進展▶ 働き方改革に向けたタスクシフト・シェア**

専門的な知識と技術に裏付けられた高い医療水準の担保とタスクシフトに向けて、特定行為研修修了看護師や麻酔補助ME等の高いスキルを持つ医療職の養成を充実。働き方改革と関連した年休の5日取得の実行

- **新規▶ 臨床系講座の新設**

・糖尿病・内分泌内科学講座の設置 奈良県の糖尿病と内分泌医療充実のため設置

・がんゲノム腫瘍内科学講座の設置 がんゲノム医療供給体制の強化のため設置

・リハビリテーション医学講座の設置 新専門医制度の19基本領域の一つであるリハビリテーション科を司る講座の設置

- **新規▶ 地震対策と臨床医の環境整備**

老朽化した臨床医学研究棟の設備をA棟へ移転し、当直室、会議用オープンスペースやセキュリティードア設置等により臨床医学研究室の環境を整備

- **新規▶ ジェネリック使用率を70%以上にする中期目標達成**

- **新規▶ コロナ病床の確保**

最大150床のコロナ用病床を確保、奈良県のコロナ対策のリーダーとして、特に重症患者の受け入れ(14床)に注力。その結果m3.comのアンケート調査において、奈良県内の機関別貢献度では第1位、大学病院別では全国第2位の貢献度評価を獲得

- **新規▶ 上記の他の新型コロナウイルス感染症関係は総合欄に記載**

# 理事長・学長からのメッセージ vol.22

## 4. 総合

### ●★MBT 構想 (医学による日本創生モデル) 関係

以下の大部分は奈良医大MBT研究所(所長:細井裕司)とMBTコンソーシアム(理事長:細井裕司)の共同事業です。

#### (特記1) 進展▶会員企業が200社を突破

2021年7月、東京海上日動火災保険、旭化成、三菱マテリアルが加わり、奈良医大の下に集まっているMBT会員企業が200社を突破し、206社となった。会員企業の本社所在地は21都道府県に分布しており、東京65社、大阪は59社、奈良32社となっている。医科の単科大学にすべての業種から200社以上が集まる世界に例がない組織に発展した。

#### (特記2) ●新規▶コロナ克服活動

新型コロナウイルス感染症対策として、感染症部会の強化

MBT会員企業からサージカルマスク、エアロゾルボックス、オゾンガス消毒器、医療用防護服、ハンドクリームなど多数の寄付を受ける。

大和ハウス等と共同で、MBT 感染症外来ユニットを開発、全国に販売。奈良市医師会が採用、その他全国で10以上の設置と引き合い

スマホアプリでコロナ感染症患者の見守りを目指した「i-SMART-MBT」の臨床試験開始

「MBT コロナ感染対策」のモデル店を指定、NHK ニュース等で紹介

ビッグイベントにおけるコロナ対策相談が多数。日経新聞主催イベント等

MBT コロナ克服キャンペーンの一環として、MBT ビジネス活性化WEB セミナーを開催

MBT コロナ克服キャンペーン奈良を開催

奈良ホテルでコロナ対策模擬立食パーティーを開催

コロナ対策を企業・団体に指導した記録「新型コロナウイルス感染対策の取り組み」(小冊子)を作成、配布

#### (特記3) ●新規▶難病克服活動

難病克服キャンペーン開始

MBT 難病克服キャンペーンの協賛企業が8社に増加(2021年7月現在)

MBT 難病克服支援WEB セミナー(9月4日)と映画祭(2022年1月8日)を実施

#### (その他の活動) ●新規▶

感染症部会など社会ニーズに対応した5つの部会を新設し、全10部会体制の確立

クオール薬局全国約600店舗のデジタルサイネージで奈良医大・MBTの社会貢献活動を常時放映

スマートコミュニティ部会が、河川水を利用した地域冷暖房システムの検討

MBT 東京大会、奈良県企業立地セミナーで荒井知事とともにMBT 活動紹介

奈良医大発ベンチャー MBT リンク社がヘルスケアサービスを開始

「MBT・万博への挑戦」をテーマに講演会開催、奈良医大と共同で万博テーマ提案

奈良医大と凸版印刷(MBT コンソーシアム理事企業)の連携研究「病院・介護現場における負担の軽減」NICT 委託研究

奈良医大、奈良先端大、MBT コンソーシアム通信部会連携で奈良医大卒業式を動画配信

MBT 研究グループ制度の成果:奈良医大研究者の研究がAMEDに採択

SafetyNet/MBT(スマートフォンを用いた最新型ナースコール)を5社と共同で開発、発表

「病院快適環境プロジェクト」の一環で、集中治療室と一般病棟に疑似窓を設置

MBT 活動の全国展開進む:北海道沼田町と連携協定を締結、高齢者見守り支援事業

MBT 活動がm3.comで紹介

ACT 京都創立7周年記念フォーラムでMBTの取り組みを紹介

2021年仕事始め式で全学に対し、「奈良医大発ベンチャー企業を立ち上げるの勧め」を発信。MBT コンソーシアムが伴走支援を行う。

MBT コンソーシアムの伴走支援で奈良医大発ベンチャー企業「MBT 微生物学研究所株式会社」が創業

MBT ロゴマーク審査委員会(委員長:渡辺同志社大学名誉教授)によるロゴマークの認定商品が13品目に増加(2021年7月20日現在)

MBT とけいはんなRC 推進協議会による医工連携の推進 MBT コンソーシアム・けいはんなRC ジョイントセミナー開催

MBT 学専攻の大学院生が博士(医学)を取得

奈良医大の教室と企業のマッチングの増加:参加教室数23、参加企業数66、累計マッチング数90回

### ●新型コロナウイルス感染症関係

#### ● 新規▶ 新型コロナウイルス感染症に対する奈良医大の体制整備と貢献

2020年4月1日新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げ本部長に就任。その下に病院部会、教育・研究部会、先端研究部会、記録部会(NHKとの協業)を組織。MBT 感染症部会との連携を構築。すべての情報を本部における仕組みの構築、また、すべての情報をコロナ対策本部ニュースとして全学に発信し、情報の一元化を達成

- **新規▶ 奈良医大、MBT コロナ克服キャンペーンの全国展開**  
対策本部会議において、「新型コロナウイルス感染症防止対策」の基本方針として、3密回避より本質的な3感染ルート（接触、飛沫、エアロゾル）遮断を決定、全国に啓発
- **新規▶ MBT コロナ対策・企業相談分科会（メンバー：三井住友銀行、日本生命、損保ジャパン、日本経済新聞、大和ハウス、クォール、インデックスコンサルティング、南都銀行）と共に啓発活動を全国展開**  
オゾンによる新型コロナウイルス不活化とその条件を世界で初めて発表  
「柿渋による新型コロナウイルス不活化」（世界初）を記者発表 製品化企業を公募、48社から問い合わせがあり、具体的提案書が提出された19社と製品化検討、最終的に4社が製品化して発売済み  
光触媒のコロナ不活化効果を確認（世界初）  
市販のお茶のコロナ不活化効果を確認（世界初）
- **新規▶ 東大寺との共同啓発活動** 東大寺修二会（お水取り）支援、狭川普文別当、笠原敬感染症センター長と啓発活動を全国発信
- **新規▶ コロナ下の教育** 遠隔授業施行のための設備投資、学生援助、MBT 通信部会の協力の下でWEBの活用

## ●総合種々

- ★ **拡大奈良医大：相手先費用負担により橿原外に奈良医大連携大学院・研究所などを設置（奈良県3カ所、大阪府1カ所、東京1カ所）**  
進展▶ 奈良医大MBT 研究所分室を北海道沼田町に開設
- **未来への飛躍基金：学生、教職員の能力を最大限に引き出すための各種施策に使用**  
進展▶ 2019年12月集計で過去最高の寄付申し込み額 208,737千円を達成。種々の事業に活用、高度医学シミュレーター購入
- **学内広報の活性化**  
進展▶ 理事長・学長からのお知らせの学内一斉メール：vol.13～26の14回  
学報における理事長・学長からのメッセージ：vol.70～77の8回  
MBT ニュースレター：第26号～100号の75回 MBT ジャーナル：vol.6～8の3回
- **積極的な情報発信、広報の充実（NHK テレビなど）**  
進展ならびに新規▶ マスコミ対応  
記者会見を開くなど、マスコミ広報に注力。媒体は新聞、テレビ、YouTube、メディカルノートを通じたヤフーニュースなど。MBT 関係だけで、評価期間中に64回の報道  
積極的にNHK や日本経済新聞、毎日新聞等の記者と関係を構築。NHK 全国放送（おはよう日本など）、新聞報道に寄与例として、旧知のNHK ディレクターとの話し合いから、NHK 記者2名が2020年4月から約3ヶ月間奈良医大に常駐し、取材した。その結果、NHK 全国放送（NHK スペシャル、プロフェッショナル）で奈良医大の活動が紹介された。  
メディカルノート（ヤフー関連企業）との連携により、メディカルノートと奈良医大の共同記事がヤフー上で検索上位になる仕組み構築
- **新規▶ けいはんなRC 推進協議会**  
文科省・JSTの大型プロジェクトである「けいはんなRC」のレガシィを引き継ぐための協議会が設立され会長に就任。  
けいはんなの工学的研究力と奈良医大の医学の力の融合を目指した活動を展開
- **新規▶ 万博への参加**  
2025年の大阪・関西万博で奈良医大の存在感を示すことを目的に「けいはんなRC 推進協議会」と共同で万博協会への働きかけを実施。石毛万博事務総長に面会し会場の見守り等について提案

## 5. その他（法人経営等）

- ★ **毎月の知事面談**  
進展▶ 内容の深化 知事、副知事、医療政策局長と緊密な連携
- ★ **外部評価のため有識者委員会の設置（委員長：松本紘 理化学研究所理事長）**  
進展▶ コロナのため書面で委員会を開催
- **新規▶ 本学の基本方針の策定** 本学は、将来にわたって「主たる大学」として発展することを基本方針とする。役員会等は基本方針に基づいて、種々の施策を決定し、実行する。（令和2年4月22日）
- **新規▶ 各教室の自己目標設定と自己評価の大学への提出** 各教授に対し、教室員と大学当局に対して教室の目標を明確にするため、教室の目標と自己評価の大学への提出を義務づけ、同時に教室員に対しても教授の考えを伝えるように要請
- **新規▶ 新教員評価システムの導入** 教室主任の評価を重視する新システムの導入。自己の教室だけでなく大学への貢献を重視
- **新規▶ 提出書類の期日厳守を徹底**
- **新規▶ 新型コロナウイルス感染症対応手当の支給** 役員以外の全教職員に対して1人23万円（フルタイム勤務者）を支給
- **新規▶ 新A棟の高さ制限の緩和への取り組み** 今後計画される新A棟を効率の良い病院にするため、高さ制限の緩和を目標にしたまちづくりプロジェクトの創設を役員会で決定

## 図書館ウェビナー 2021年の振り返り

図書館では、2021年7月からZoomによるオンラインセミナー（ウェビナー）を開催しています。今回は、これまでに開催した図書館ウェビナーをまとめてご紹介します。

【図書館ウェビナー：月3～4回開催、1回30分、17時30分～18時。毎月初めに一斉メールでその月の開催予定とZoom URLをお知らせ】

## 7月

- 第1回(7/7) : PubMedとは／PubMedの構成／キーワードの入力／論理演算子
- 第2回(7/14) : 検索結果の表示／Filtersによる絞り込み／出力方法
- 第3回(7/21) : Advanced画面／検索項目の指定
- 第4回(7/28) : MeSHとは／自動マッピング／データ整備状況

7月は、ひと月通して扱うテーマをPubMedとし、4回に分けて基本機能を丁寧に説明しました。実際の操作画面を見ながらの解説、また一コマ30分という手軽さからか、毎回20名以上ご参加いただき、ウェビナーの可能性を感じました。また、PubMedはやはり注目のテーマであることを再認識しました。

## 8月

- 第1回(8/4) : ジャーナルインパクトファクター
- 第2回(8/11) : ジャーナルの評価の仕方  
—JIF、PubMed 掲載誌から—
- 第3回(8/18) : EndNote online
- 第4回(8/25) : UpToDate、DynaMed

8月は、図書館でよく尋ねられるオンラインリソースを取り上げました。ジャーナルインパクトファクターは研究者だけでなく事務の方にも好評でした。EndNote onlineについては、ウェビナー後にいくつか問い合わせをいただき、Zoomで質問者と画面共有しながらやり取りするなど、問い合わせの対応方法を広げることができました。UpToDate、DynaMedといった臨床支援ツールについても簡単な説明をしました。

## 9月

- 第1回(9/8) : PubMed最強の武器MeSH
- 第2回(9/15) : PICOでパッチリPubMed
- 第3回(9/22) : 図書館資料、電子資料の探し方
- 第4回(9/29) : 知って得る医中誌web豆知識

9月前半は、7月に基本的な説明をしたPubMedについて、もう少し進んだ内容にしました。PubMed検索では避けて通れないMeSHについて、また、系統的検索に必ず出てくるPICOを使った検索方法について、検索では中級にあたる内容です。一方、後半は基本的な内容になりました。資料の探し方や医中誌の使い方は、知っておくと手間を省けたり、より適当な方法を見つけられるため、ぜひお伝えしたいトピックでした。

## 10月

- 第1回(10/6) : PubMed 検索実践—治療編—
- 第2回(10/13) : 化学情報データベース [SciFinder] 特別セミナー  
※化学情報協会主催
- 第3回(10/20) : PubMed 検索実践—診断編—
- 第4回(10/27) : コクランライブラリーにチャレンジ! ①

10月は一部を外部講師に依頼するという新しい試みを取り入れました。化学関連分野の代表的なデータベースであるSciFinderについ

て、化学情報協会の方に解説いただきました。PubMedは、前月まで一通りの機能を解説し終えたため、より実践的な内容をスタートさせました。治療、診断それぞれに関する疑問を取り上げ、それらについてどのように検索していくかを具体的なステップを踏んで解説しました。また、コクランライブラリーについて基礎的な内容を解説しました。こちらは一回で終わらず次の月の二回に渡るテーマとなりました。

## 11月

- 第1回(11/12) : 看護文献データベースCINAHL基礎編①
- 第2回(11/17) : 臨床支援ツール「UpToDate」特別セミナー（ウォルターズ・クルワー主催）
- 第3回(11/24) : コクランライブラリーにチャレンジ! ②

11月からは水曜日以外にも開催するようになりました。まず第1回では、看護文献の代表データベースCINAHLについて基礎的な内容を説明しました。こちらもコクランライブラリー同様、二回に分けました。コクランやCINAHLなどの有名なデータベースは基本的な説明でも30分では足りません。また、9月に簡単に紹介したUpToDateについて外部講師としてUpToDateを取り扱うウォルターズ・クルワー社の方に解説を依頼しました。外部講師の場合は遠くにいらっしゃることも多いですが、移動の負担なくお願いできることもウェビナーならではです。

## 12月

- 第1回(12/10) : 看護文献データベースCINAHL基礎編②
- 第2回(12/16) : 臨床支援ツール「UpToDate」特別セミナー（ウォルターズ・クルワー主催）
- 第3回(12/22) : Ovid MEDLINEの紹介

12月は、CINAHL基礎編の続きから始まりました。そして前月に続きUpToDateについて外部講師に解説いただきました。2021年の最後は、Ovid MEDLINEについて、PubMedとの違いも交えて解説しました。MEDLINEは提供元の違いにより検索コマンドなどが異なるため、それぞれの特性を知っておくことは検索に役立ちます。

以上、2021年の図書館ウェビナーを振り返りました。勢いで始めたウェビナーでしたが、30分という短さは忙しい学生や医療従事者の方にも気軽にご参加いただける時間のようです。テーマにより増減はありますが、毎回数名の方には必ずご参加いただいています。また、好きな場所から参加できることも、対面形式より集まりがよい理由と考えられます。ウェビナー開始後は、今までなかったような問い合わせをいただくことから、ウェビナーを見てもらっていることを実感しています。これからも、学生や教職員の皆様に役立つ知識やスキルをお伝えできるよう、いろいろなテーマを取り上げたいと考えています。テーマ、開催時間、曜日など、ウェビナーについてご希望がありましたら、ぜひ図書館にお寄せください。また、毎回記録用に録画しておりますので、時間が合わず見られなかったという方もお気軽にご連絡ください。



## 1. 経団連「地域協創アクションプログラム」

2021年11月16日、日本経済団体連合会は提言「地域協創アクションプログラム」を公表しました。このアクションプログラムでは10の協創項目を示し、これの実現に向けて、政府や地方自治体、大学、スポーツ団体など多様なパートナーと連携し、具体的な取り組みを進めることとしております。現在21のグループがパートナー団体となっておりますが、MBTコンソーシアム・奈良医大は「医療・育児・介護・移動など健やかで快適な暮らしの基盤を協創する」の協創項目のパートナーとして連携しました。他のパートナーは、内閣府、農林水産省、国土交通省、観光庁等の官庁、全国知事会、指定都市市長会等の地方自治体、Jリーグ等の全国的な団体が選ばれており、MBT活動が全国的な活動であることが中央においても認識されつつあると考えております。

## 2. 令和3年度奈良県研究開発支援事業

本学とMBTコンソーシアム会員企業のDMG森精機(株)、奈良精工(株)は「超音波ガイド下手術・手技器具の開発事業」の課題で令和3年度奈良県研究開発支援事業に応募しておりましたが、この度採択されました。事業期間は令和4～6年度の3年間、補助金の交付総額は1億円となっております。本事業では超音波診断装置や手術器具の三次元的な操作をサポートするために最先端の機械工学技術を導入し、痛みが少なく安全な治療を幅広い臨床現場において可能とするための医療器具を開発することとしております。

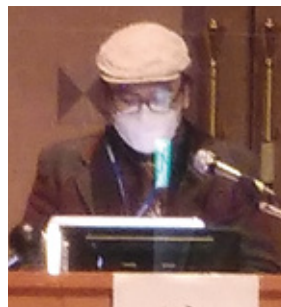
## 3. MBT難病克服キャンペーン

### (1) 協賛企業

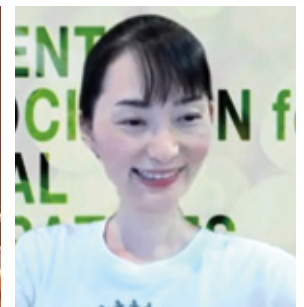
難病克服キャンペーンに参加の企業は、協賛商品の販売額の0.1%を協賛金として、MBTコンソーシアムに寄付していただき、難病に関わるNPOや研究者等を支援する原資としておりました。しかしながら、協賛商品販売数管理や協賛金の納付など煩わしい作業が増え、参加企業にご負担をかけていることに鑑み、販売額0.1%の協賛金を不要とすることにしました。難病に関わるNPOや研究者を支援する原資は、会費収入の一部から賄う予定です。

### (2) MBT映画祭関連セミナー

2021年11月13日、日本蘇生学会第40回大会(会長:本学麻酔科学川口昌彦教授)がホテル日航奈良で開催され、その中で「難病克服キャンペーン特別企画～MBT映画祭関連セミナー」が開催されました。同セミナーでは、映画監督の西尾弘志氏、NPO法人遠位型ミオパシー患者会代表の織田有理子氏による講演が行われました。



講演する西尾弘志氏



講演する織田有理子氏

### (3) MBT映画祭

2022年1月8日、「みんなで守るいのち」をテーマに、いのちを守る取り組みや難病に関わる人々を応援し、勇気づけるような短編映画を集めた「MBT映画祭」が奈良県橿原文化会館で開催され、優秀作品の上映会及び授賞式が行われました。最優秀賞には、車椅子ユーザーの女性の日常や困難をユーモラスに描いた「バリアフルライフ」が選ばれました。

## 4. MBT感染対策支援コンサルティング株式会社設立

2021年10月8日、感染制御内科笠原敬病院教授を代表取締役とする「MBT感染対策支援コンサルティング株式会社」が創立され、奈良医大発ベンチャーの認定を受けました。奈良医大発ベンチャーはこれで3社となりました。また、MBTコンソーシアムは、奈良医大と連携し医学知識を基に産業創生活動も推進する立場から、30万円の出資を行いました。MBT感染対策支援コンサルティング株式会社は「企業や団体等への感染症対策コンサルティング」、「研修プログラム、教材開発等の感染対策委託事業の受託」、「感染症対策に関する講習会開催と受講証の発行、感染症対策検定試験」などを行う予定です。



認定書を持つ笠原病院教授

# 先端医学研究支援機構だより

## 研究力向上支援センターからのお知らせ

### 1 重点研究進捗状況報告会を開催しました

本学では、将来像の重点研究2016推進計画に定める重点研究課題として、『国内外から多くの研究者が集まる拠点づくりを目的とした日本を世界を牽引する研究』『奈良県立医科大学教育改革2015で宣言する「良き医療人の育成」を実践していくための研究』を推進しています。

このたび11月29日に次の研究の進捗状況報告会を開催しました。

今年度は、新型コロナウイルス対策として教職員にWeb配信による同時中継で実施しました。

「血栓止血の制御に関する研究」

血栓止血先端医学 准教授 辰巳 公平

「画像下での低侵襲医療に関する研究」

放射線診断・IVR学 教授 田中 利洋

「良き医療人育成に関する研究・卒後医療人のキャリアパスに関する研究」

教育開発センター 教育教授 若月 幸平



辰巳准教授



田中教授



若月教育教授

### 2 若きトップサイエンティストの挑戦(リサーチストーリー) vol5 を掲載しています

(本学ホームページ) > 研究力向上支援センター > 若きトップサイエンティスト > vol5 山室和彦先生(精神医学 学内講師)

精神医学 学内講師 山室 和彦先生

このシリーズは、本学で国際的に活躍されている若手の研究者の方々にお話を伺い、学内を始め広く学外にも紹介しています。

今回のリサーチストーリーでは、脳神経科学分野において世界的に有名なジャーナルである【Nature Neuroscience】(IF=24.884)に論文が掲載されました山室先生にお話を伺いました。論文の概要や研究プロセス、留学先でのエピソードも交えてインタビューしております。

この内容は、研究力向上支援センターのHPに掲載しておりますので是非ご覧ください。



研究力向上支援センターでは、この他様々な情報を発信しております。今後もメルマガ「科研費ニュース～Go for it! KAKEN～」や研究力向上支援センターの学内ホームページでご紹介をしますのご期待ください。

## 医学研究支援センターからのお知らせ

### 組換えDNA実験安全委員会講演会を開催しました

東京大学の三浦竜一先生(本部ライフサイエンス研究倫理支援室 教授)に「遺伝子組換え生物の適正な使用と最近の話題」と題し、遺伝子組換え実験を実施する際の拡散防止の考え方や方法、常に安全な組換え実験の実施を意識する大切さについて、11月11日に本学の実験者に対してご講演をいただきました。



## 研究費不正使用防止の取り組み

### 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン (実施基準)」が改正されました

科研費などの競争的研究費を適切に執行・管理するために文部科学省等が定めている「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン (実施基準)」が令和3年2月に改正されました。当ガイドラインは平成19年2月に策定され、平成26年2月の改正に続き、2回目の改正となります。これに伴い、本学においても当ガイドラインに基づく学内の規程や不正使用防止計画などの管理の体制を整備します。今回は、当ガイドラインの改正と本学の諸規程や不正使用防止計画について説明します。

### 主な改正点の概要について

今回の改正では、研究機関全体の意識改革を図り、研究費の不正の防止に関する高い意識を持った組織風土を形成するために、不正防止対策強化の3本柱（「ガバナンスの強化」「意識改革」「不正防止システムの強化」）をあげて、不正防止対策の強化を図ります。

「ガバナンスの強化」では、最高管理責任者（＝理事長）のリーダーシップと役割を明確にし、役員会等で審議することが要件化されました。また、監事（大学の財務の状況や業務執行の状況を監査する役員）に求められる役割として不正防止に関する内部統制の状況を機関全体の観点から確認し、意見を述べることも要件化されました。

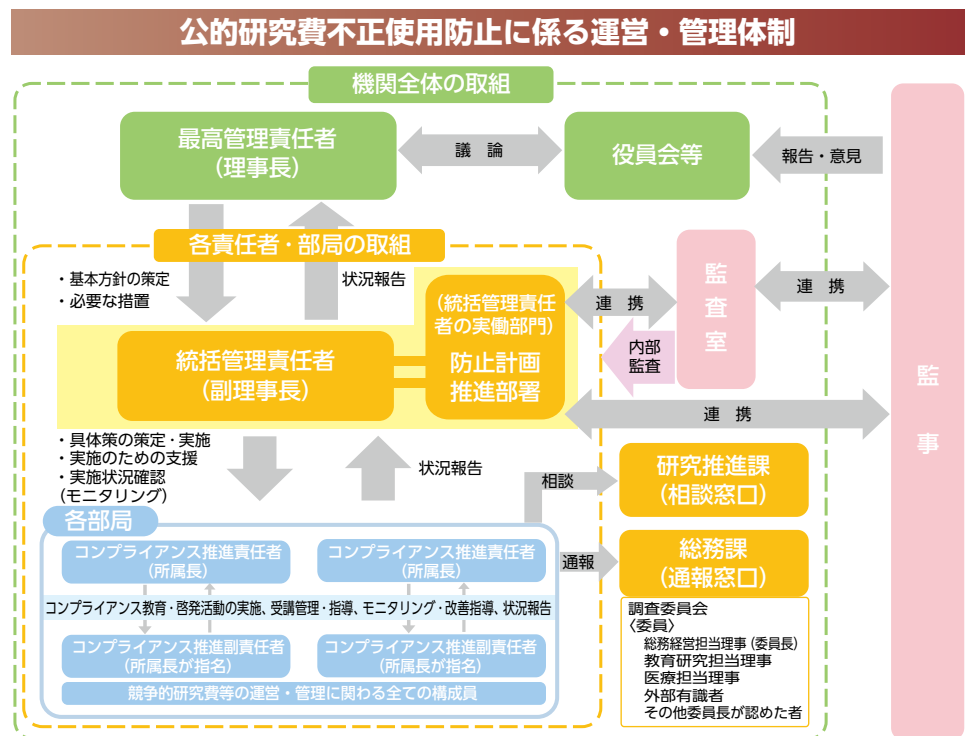
「意識改革」では、研究不正に対する意識の向上と浸透を図るため、例年行っているコンプライアンス教育（＝研修会）に加え、「啓発活動」を実施することになりました。定期的にリーフレットの配布やポスターを掲示し、意識の向上と浸透を図ります。

「不正防止システムの強化」では、監事・会計監査人・内部監査部門の連携を強化し、不正防止システムのチェック機能の強化や内部監査の結果などの認識を共有し、不正使用防止計画へ反映する等、効果的な内部統制を運用するための不正防止のPDCAサイクルを徹底することも求めています。

### 本学の改正概要について

これらの改正点を踏まえ、本学においても公的研究費の管理・監査の体制を規定している「公立大学法人奈良県立医科大学における公的研究費の取扱いに関する規程」や「公立大学法人奈良県立医科大学公的研究費不正使用防止計画」を改正し、役員会での審議や啓発活動について明文化します。また新たに「コンプライアンス教育・啓発活動の実施計画」を策定し、具体的なコンプライアンス教育や啓発活動のスケジュールをお知らせします。

改正後の公的研究費の管理・監査の体制については、右図のとおりとなります。



今回の改正の大きな特徴は、既存の管理・監査の体制の強化・整備を図るものであり、普段の研究費の使用に関するルール等を変更するものではありませんが、今後、コンプライアンス教育・啓発活動を実施することにより、研究者等のみなさまに、日頃の研究費の使用に関する注意点などをわかりやすくお知らせし、適正な研究費の執行の支援に努めてまいります。

また、これらの公的研究費の不正使用防止体制に関して、本学内のHPも見やすいものに工夫し、研究者のみなさまにわかりやすく制度を伝えることにも努めてまいります。

【お問い合わせ】 研究推進課研究支援係（内線 2551）

【規程等】 学内ホームページのホーム>研究・産学官連携>公的研究費の不正使用防止体制

# 国際交流センターだより vol.6

## 「第2回 英語で学ぶ医学・看護学WEBセミナー」を開催しました

本学では英語教育の重要性を鑑み、臨床英語教育に力を入れています。その取り組みの一環として、学部教育時から「英語で医学や看護学を学ぶ」機会の充実を図るため、英語セミナーを開催しています。11月26日に開催した「第2回 英語で学ぶ医学・看護学WEBセミナー」では、未来基礎医学准教授の森英一朗先生を講師にお迎えし、基礎研究者としてのキャリアパスについて英語でご講演頂きました。セミナーには医学科2年生およびTeams視聴者約50名が参加しました。今後も定期的に英語セミナーを開催し、本学の英語教育の活性化に繋がっていきたいと考えています。

### MESSAGE

国際交流センターセンター長

嶋 緑倫 (医学部長)

本年度から「医学を英語で学ぶ」プロジェクトが始まりました。本プロジェクトの第1弾が英語WEBセミナーです。初回は、9月に本学の招聘教授であるミシガン大学消化器内科の鎌田先生に、第2回は11月に未来基礎医学の森准教授によりご講演をいただきました。国際交流センターでは今後も定期的に海外で活躍されている先生方による英語でのセミナーを実施してまいります。英語で医学を学ぶことはchallengingですが、皆様のお役に立てることを祈っております。



参加した医学科2年生



英語で講演する森准教授

国際交流センター副センター長

森 英一朗 (未来基礎医学准教授)

第2回目の英語で学ぶ医学・看護学WEBセミナーでは、対面では基礎医学の前期課程で解剖学・生理学・生化学を学んでいる最中の医学科2年生に対し、学内教員として「奈良医大卒の基礎研究者の生態～学生時代から今に至るまで～」と題して講演しました。研究内容に関して英語での質問が寄せられるなど、積極的な質疑応答が行われました。TeamsでのFormsやチャット機能を活用した双方向性の参加型のスタイルを取り入れる等の工夫を凝らしました。次回以降も、様々な工夫を凝らし、より質の高いセミナーにしていきたいよう努めて参ります。

### 学生の声

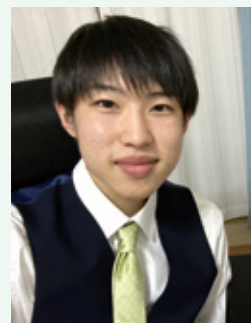
医学科2年 岡田 七海

森先生の講演を聞いて改めて英語学習の大切さを知りました。最先端の医療知識を得るためには世界中の文献に触れたり、様々な国で行われる学会などに参加したりすることになります。やはり世界共通言語である英語を身につけておくことは今後のキャリアの中でも大切なスキルになると思います。また、森先生の研究内容は非常に興味深く、一つのプロジェクトを成し遂げるのにも各業界の技術の統合が必要であり、医療以外の分野の研究者とも協力することは魅力的でした。



医学科2年 井口 一步

今回の英語セミナーは自分の英語学習、特にリスニングについて見つめ直す良い機会となりました。講演内容は先生の研究ということもあり専門性が高く、高度な理解能力を求められました。議論が込み入ってくると話の速さに追いつけず、断片的な理解で終わる部分がありました。私は将来海外で働くことに興味があります。講演を受けて現在の英語力と目指すべき地点の差を把握することができました。森先生に感謝を申し上げつつ、これからも英語能力の向上に励みたいと思います。



## 海外リサーチ・クラークシップ成果報告①：ジャーナルに掲載されました

海外リサーチ・クラークシップの参加学生の多くが、プログラム参加後も学内の研究室に所属し、研究活動に取り組んでいます。そんな学生が貢献・活躍した研究活動が、共著論文として発表されました。ご指導を賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。研究活動に興味がある学生の皆さん、研究室に所属している先輩に気軽に相談してみてください。そこには研究室でしか得られない出会いと学びがあります。

### ■ Nature Communications ■ C9orf72-derived arginine-rich poly-dipeptides impede phase modifiers

DOI:10.1038/s41467-021-25560-0 2021年9月6日 オンライン掲載／長田理瑚(医学科6年)、森川成孝(医学科5年)

#### ジャーナルに掲載されて

医学科6年 長田 理瑚

「神経変性疾患における相分離制御破綻の機序解明」に関する論文の共著者としてご掲載いただきました。本プロジェクトに参加させていただいたことで、様々な最新の実験手法について大変勉強になりました。実験では失敗することも多くありましたが、その度に先生方とディスカッションを重ね、一つ一つ乗り越えていくということを学生時代に経験できたことは大きな財産となりました。ご指導いただいた、七浦仁紀先生、森英一朗先生始め共著者の先生方にこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。



医学科5年 森川 成孝

「Nature Communications」誌での論文発表に際し、共著者としていただきました。実験には様々な困難が伴いましたが、自分が出したデータがfigureとして掲載された時の喜びは何物にも代えがたいと感じました。研究は長く時間をかけて結果を積み上げ、仮説を検証してゆきます。この一連の流れを学生の間に学ぶことができるのは非常に貴重な経験であると思います。ご指導いただいた共著者の先生方に、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。この経験を活かし、今後も精進してまいりたいと思います。



## 海外リサーチ・クラークシップ成果報告②：西日本医学生学術フォーラム2021を開催しました

医学科5年 森川 成孝

11月13日に西日本医学生学術フォーラム2021を本学主催で開催いたしました。新型コロナ禍の影響でオンライン開催となりましたが8大学11演題の口演発表が行われ、様々な分野の発表や学生同士での活発な議論が交わされました。また本学OBの水野友貴先生(2020年卒)と中原一貴先生(2019年卒)にキャリアに関して講演いただき、自身の将来について考えを深める良い機会にもなりました。ブレイクアウトルームを利用した座談会セッションでは、所属大学・学年を超えた交流が行われたと感じております。開催にあたり尽力いただいた森英一朗先生(未来基礎医学)をはじめとする先生方、ともに学生代表を務めてくれた5年生4名、そして参加していただいた皆様にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。



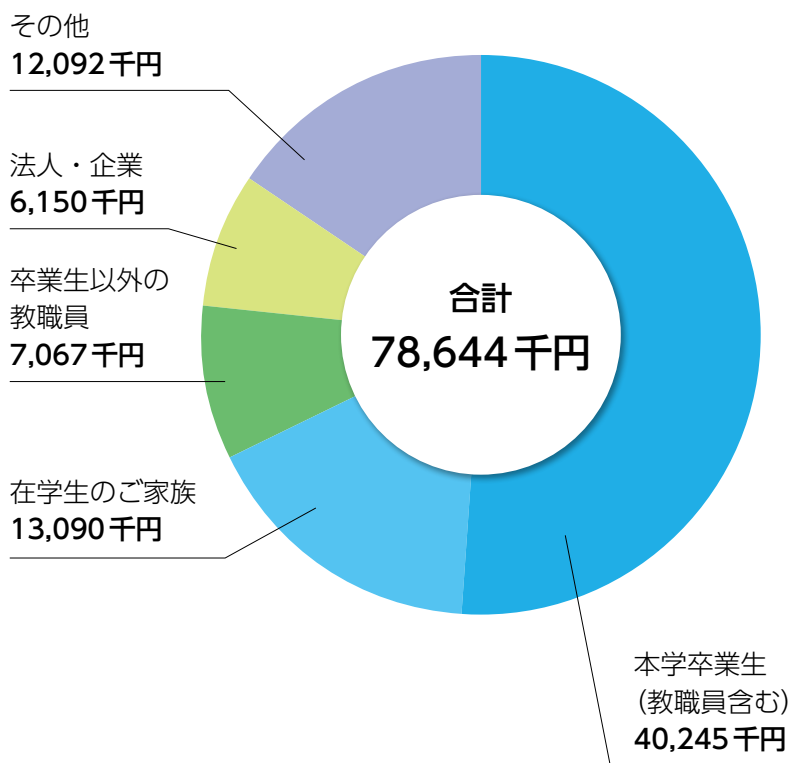
発表・運営に携わった学生たち

リサーチ・クラークシップ：医学科2年生を対象とした研究室配属プログラムで、早期に国内外の研究室に参加することにより、研究マインドを育てることを目的としています。

# 未来への飛躍基金だより

平素より、基金へのご協力を賜りありがとうございます。今回は、令和3年度の12月末現在の寄附申込状況及び紺綬褒章についてご報告をします。

## 寄附申込状況 (令和3年12月31日現在)



基金は、本学関係者の皆様からのご厚志によって支えられております。

今年に入ってすでに数十件の申込をいただいております。約87%の方には継続してご寄附をしていただいております。

新型コロナウイルス感染症拡大の大変な状況の中で、基金へのご協力、誠にありがとうございます。

今後も、皆様のご期待やご意思にお応えするよう活用してまいりますので、引き続きご支援の程よろしくお願い致します。



未来への飛躍基金では、「最高の医療」を提供し続けるために、より良い「学び」の環境を整えることで、頑張る医療関係者の方々に応援しています。

また、令和3年度も、学生の海外派遣等、実施できない事業も多くありましたが、医療関係者の方々にご活用いただくことを目的として新たに高度シミュレータの購入といった事業を進めています。

### 紺綬褒章について

令和2年8月に本学が内閣府賞勲局から公益団体として認定を受けました「紺綬褒章」について、分納寄附等のお問い合わせを多くいただいております。

授与申請は、本学の取扱基準に従って手続きを行っており、種々の条件がありますので、ご質問等ございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。

#### ●紺綬褒章とは…

国、地方公共団体や内閣府賞勲局が認定した公益団体に、私財（個人は500万円以上、団体は1,000万円以上）を寄附した者に授与される褒章です。ただし、返礼品等を受領する場合や、寄附をすることにより何らかの利益がある場合は対象となりません。

奈良県立医科大学 総務課

TEL : 0744-22-3051 (内線 : 2803) E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

未来への飛躍基金 HP : <https://www.narmed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>

または「未来への飛躍基金」で検索！

こちらからもアクセスできます▶



# スキルラボからのお知らせ

この度令和4年1月よりスキルラボの利用方法が新しく変わりますので、スキルラボの今後の展望とともにご紹介いたします。

シミュレーション教育は、臨床スキルを獲得するために重要な教育方法です。シミュレータの使用により、早期から臨床経験が可能となり、繰り返し実践することにより臨床スキルを獲得し、実際の患者の診療を行うための準備に役立つものと考えています。さらにリスクのない環境で手技を十分に習得することが、医療過誤の抑制にもつながると考えています。

さて、先日文部科学省の感染症医療人材養成事業に申請した78件のうち38件が選定され、本学もその中の1校に選ばれ約1億円の補助を受けました。さらには未来の飛躍基金からも約7千万円の補助を頂き、これらの補助金で多岐の分野にわたる高度シミュレータを購入(購入予定)させて頂きました。今後は、これらのシミュレータの利用を促進するため、医学科・看護学科の臨床実習での使用や本学附属病院のセミナーや講習会の開催、学外への開放を進めていきたいと考えています。

また、皆さまにシミュレータを安全に使用して頂くために、すでに所有しているシミュレータを含め、高度シミュレータに使用責任者を配置することにいたしました。使用責任者の方には、医学科生、看護学科生、初期研修医、未使用者が実習でシミュレータを使用する場合の指導者や医学科生、看護学科生、初期研修医、同窓会員向けのセミナーや講習会の指導者になっていただく予定です。さらに、使用責任者から指導を受けた方には、スキルラボ室への申請のうえ新たな使用責任者となって頂き、使用責任者を増員していく予定です。

スタッフ一同、これからも、利用しやすく皆さんのお役に立てるスキルラボにしていきたいと考えております。皆様のご利用をお待ちしています。



新しい利用マニュアルや予約方法等をHP上に掲載しています。

【URL】[https://www.naramed-u.ac.jp/~skills\\_labo/](https://www.naramed-u.ac.jp/~skills_labo/)

【検索】奈良医大 スキルラボ

【リンク】教育開発センター WEB ページにリンク

を貼っています



## 1) 利用可能諸室

### (1) スキルラボA

- ・スキルラボ棟2階：シミュレーション室1、シミュレーション室2
- ・教育研修棟2階：Room4～8、Room12～17

### (2) スキルラボB

- ・A棟5階シミュレーション室3

## 2) 利用可能時間

原則として9時から20時まで

## 3) 利用申込

### (1) 原則として使用予定日の2か月前から1週間前(学外者にあつては1ヶ月前)までに次の手順で使用申込を行う

#### ① 予約状況を「スキルラボ予約状況」で確認

【URL】[https://naramedu.sharepoint.com/sites/g\\_SkillsLabo](https://naramedu.sharepoint.com/sites/g_SkillsLabo)



#### ② 「スキルラボ施設利用・貸出申込フォーム」から利用申込

【URL】<https://forms.office.com/r/AvJ6sJ9Ppw>

又は「スキルラボ使用申込書」をスキルラボ管理室に提出



- (2) 高度シミュレータの使用にあつては、申込者が使用責任者にアポイントメントをとったうえで申し込む
- (3) スキルラボの利用申込は原則として先着順とする
- (4) 予約に空きがある場合の当日の申込みについても上記(1)①により申し込むこととする。

お問い合わせ 教育開発センター (2579)  
スキルラボ (2182)

# 看護部の紹介

## 乳がん看護認定看護師の活動

乳腺センター E棟6階北 宮城 恵

乳腺センターでは、乳がんと診断された患者に対し治療選択の意思決定支援や心理的サポート、治療に伴う副作用へのケアなどを行っています。治療に伴う外見上の変化に対して、ウィッグや補整下着の説明、リンパ浮腫へのセルフケアについて指導を行っています。また、乳がんの薬物療法により卵巣機能障害を来す可能性があることを患者・家族に情報提供を行い、妊孕性の温存についても取り組んでいます。

乳がんの治療は様々な治療を組み合わせられることも多く、長期間治療を継続することがあります。治療を継続しながらQOLを落とすことなく日常生活を送っていただけるよう、患者・家族の思いに寄り添いながら、治療と療養をサポートしています。

現在は不定期で乳がん看護外来を行っていますが、今後定期的に行っていく予定ですので、どのような相談でも気軽にご連絡ください。



## 10.24 橿原市民体育大会 (ソフトボール) で3位入賞しました

中央内視鏡部 師長 森川 知子

『師長さん！ソフトボールで橿原市民体育大会に出場しませんか？』スポーツ好きの臨床工学技士の一言で、看護師長が監督に就任し、臨床工学技士、看護師、臨床検査技師、事務部門の職員が集まってチームができました。あれから4年…この2年間コロナ禍で練習することが出来ず不安の中臨んだ試合でしたが、チームワークばっちりで念願のメダルを獲得することが

できました。ソフトボールチームを結成したことで、普段の業務上でのかわりや相談も円滑になり、所属や職種の垣根を超えた働きやすい環境作りに作用しています。一刻も早くコロナが終息し、みんなが笑顔いっぱい思いっきり練習できる日が戻ってくることを願いながらこれからも業務に励みます。





# 働き方改革だより

今回は医療技術職ワーキンググループ（臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、薬剤師で構成）での業務効率化や勤務時間短縮、タスクシフトに向けた取り組みを紹介します。

## 業務負担の平準化について

中央臨床検査部副技師長 山口 弘美

検査部では、職種間のタスクシフトへの対応に向けて現在の業務の見直しを行い、業務負担の偏りを無くしていく取り組みを試みています。

現状の問題点を話し合ったところ、子育て中のスタッフの増加に伴い、当直担当者の人数が部署により偏りがあるために代休の頻度にも偏りができています。このことがルーチン業務への負担増や超過勤務に繋がっているのではないかと意見があげられました。そこで、当直体制を見直し、24時間勤務であった土日の当直を日勤と夜勤に分割して当直表を組み直し、子育て中のスタッフも当直に入りやすい体制に変更して今年度より試行しています。

これにより代休が分散され、業務の負担の均てん化や当直の身体的負担の軽減、更には子育て中のスタッフのキャリア継続に繋がると期待しています。

## 放射線治療計画業務のタスクシフト

中央放射線部副技師長 村井 正二

医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト／シェアの推進の一つとして、診療放射線技師（医学物理士認定者）による放射線治療計画の作成を進めています。従来、医師が治療方針決定後、医師あるいは専属の医学物理士が治療計画を作成していました。しかしながら、近年の治療の高精度化に伴い、計画作成の作業にも多くの時間を要するようになったため、技師へのタスク・シフトを試みました。

この取り組みは1件あたり、およそ1.5時間程度の医師の業務負担を軽減できるだけでなく、担当する技師の放射線治療業務への向学心、探究心を刺激する良い機会にもなるため、次年度以降の本格稼働に向けて準備を進めています。



院内全体で  
ワークライフ  
バランス！



## 麻酔アシスタント業務の実践と スタッフ育成

医療技術センター副技師長 小西 康司

医療技術センターでは、臨床工学技士（CE）を麻酔アシスタントとして育成しています。具体的には、事前の麻酔器や薬剤・輸液ラインの準備、術中の麻酔記録の代行記載、医師の指示のもと麻酔器の管理業務を行います。育成には、麻酔科医の指導の下、1年間OJTで実習し、修了者は「高度医療技術修得者」として当院より認定され、職員のモチベーションアップにもつながっています。麻酔科医からのタスクシフトにより医師の労務負担軽減を図るとともに、医療安全の質の更なる向上を目指しています。



## 働き方改革の意識付け

薬剤部副部長心得 谷田 彩

薬剤部では、早めに出勤して仕事にとりかかる風習がありました。今年度の取り組みとして、超過勤務と自己研鑽をはっきり区別し、自己管理を行えるよう各自で出退勤システムに入力することにより意識付けを行いました。また、毎日の朝礼を8時30分スタートと明確にし、朝8時に機械のスイッチを入れる作業は当直者の業務とし、早めに出勤して実施していた薬のオーダー取り込みは、勤務開始時間に出勤して取り込むようにしました。（病棟への出来上がり時間は同じです。）

このような取り組みの積み重ねにより、部員の意識は変化してきているように感じられます。メリハリのある働き方により個々の職員のワークライフバランスが向上し、薬剤部全体としても効率的な業務運営ができるという好循環が生まれています。今後も各種見直しをすすめ、小さいことを積み上げ、働きやすい環境作りに繋がっていきたいと思っています。

## 患者状態適応型パスシステム (PCAPS) の院内見学の現状について

医療情報部 部長 玉本 哲郎

奈良県立医科大学附属病院に患者状態適応型パスシステム (PCAPS) を導入して2年半が経過しました。このパスシステムは、10年以上前に東京大学・水流研究室で開発されたものです。当院で導入時に全患者適応が可能となるように改良し、全診療科の医師、看護師および診療情報管理士の協力で不足分のパスコンテンツの作成を行って、大学病院での導入が実現しています。実際に当院では90%以上の患者さんにパス適応可能となっており、パス離脱率が10%以下であることが従来型のクリニカルパスと異なる特徴です。その結果として、入院患者さんのほぼ全員の患者状態の把握ができ、クリニカルパスの目的である医療の質の改善がほぼすべての患者さんに対して実施できる可能性があります。実際に新型コロナウイルス感染症の院内感染

対策に利用されています。この取り組みがNHKのニュースウオッチ9や医学界新聞などで紹介され、他施設からも注目されています。

新型コロナウイルス感染症がやや落ち着いていたこともあり、これまでのWebによる見学から、2021年10月には、岡山中央病院、11月には大阪医科薬科大学病院のオンサイトでの見学を受け入れました。2022年には、松下記念病院、藤枝市立総合病院などの見学も予定されています。今後のPCAPSの進化と普及が期待されるシステムですが、奈良県立医科大学附属病院として、引き続きPCAPSのトップランナーとしての役割を果たしていければと考えています。





## 10.16 令和3年度奈良県立医科大学 10.17 白檀生祭を開催しました

白檀生祭実行委員会 委員長 中前 和

今年度は、新型コロナウイルスのパンデミック発生以来、初の開催となりました。まだまだコロナ禍が続いており、全ての企画を例年通りというわけにはいきませんでした。オンラインと現地でのハイブリッド開催に初挑戦し、また様々な層の方に楽しんで頂けるような新企画を多数催し、この状況下で最大限の大学祭にすることが出来たと思っております。実行委員の皆と何度も議論を交わし、創意工夫をしながら、学祭運営にあたった1年間は、一生の思い出となりました。また、この白檀生祭を通して、私たち奈良医大生は、様々な方面の沢山の方々から応援して頂いていること、支えられていることを強く実感し、奈良医大生の一員でいられることに改めて誇りと感謝の念を抱きました。この白檀生祭で培った経験と築いた人間関係をこれから先ずっと大切に、医師として人間としての成長に繋げていきたいと思っております。令和3年度奈良県立医科大学白檀生祭を開催するにあたり、ご協力頂きました近隣の皆様方、御多忙の中白檀生祭にご協賛下さった、病院・企業・店舗各位、様々な形でご協力下さった教室、御指導御鞭撻下さった先生方・同窓会各位に、この場をお借りして、白檀生祭実行委員一同より深く御礼申し上げます。



白檀生祭実行委員会

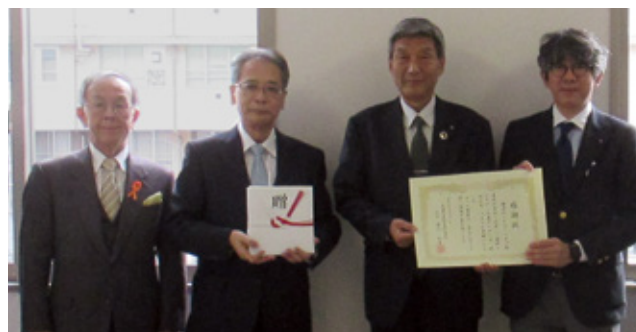
## 10.21 檀原ロータリークラブ様より 49型テレビ等を寄贈いただきました

檀原ロータリークラブ様より新型コロナウイルス感染症対応で奮闘する医療従事者に感謝の気持ちを伝えようと、49型テレビ1台、掛け時計3台、マスク500枚をご寄贈いただきました。

令和3年10月21日に寄贈式を執り行い、檀原ロータリークラブの森川善隆会長より吉川病院長に目録が手渡され、医療従事者へ感謝の言葉を頂きました。病院長がご厚志に謝意を述べ、感謝状を謹呈しました。

ご寄贈いただきました49型テレビは1階の薬お渡し口(6番窓口)に、掛け時計は北玄関、採血室、2階外来に設置しました。

今回寄贈いただきました物品は大切に活用させていただきます。



左から吉岡前学長、吉川病院長、森川会長、河村幹事



薬お渡し口に設置したテレビ

## 10.21 奈良臨床漢方医学セミナー（呼吸器領域編）を開催しました

今回のセミナーは、新型コロナウイルス感染症対策のため、ZOOMでのウェビナー形式としました。

本学呼吸器内科学 室教授の司会のもと、広島大学大学院 医系科学研究科 生体機能解析制御科学 濱田教授に「呼吸器領域における漢方薬の役割～補中益気湯と麦門冬湯を中心に～」というテーマで講演していただきました。

濱田教授は、漢方の肺疾患患者の咳や感染症後の咳に対する安全性及び有効性に関する講演をされ、非常に興味深い内容のセミナーでした。

なお、実技面での開催の要望もあり、今後の状況に応じて、実技を含めた対面でのセミナーも予定しております。開催の際は、

一斉メール等でお知らせしますので、多くの先生方のご参加をお待ちしております。詳しくは、大和漢方医学薬学センター（内線：2558）までお問合せください。



広島大学大学院 濱田教授



司会を務める室教授

## 10.22 日経クロスヘルス EXPO 2021 にて特別セッションを実施しました

日経クロスヘルス EXPO 2021 において特別セッション「これが近未来の新市場『空間×ヘルスケア 2030』の全貌」を実施、オンライン配信の形で展開しました。

健康で幸福な人生 100 年時代の実現には、日常生活で健康を作り出せる空間の応用がカギとなります。新たな価値の創造や他産業との異業種連携、得られた研究成果を社会問題解決のためにどう活かせるかを MBT 研究所の梅田智広副所長、前・経済産業大臣政務官兼 内閣府大臣政務官 兼 復興大臣政務官 参議院議員 佐藤啓氏、他登壇者 4 名の方で議論しました。

梅田副所長は、MBT とそのコア技術やノウハウを生かして各自治体と進めているヘルスケア関連の取り組みを紹介、今後も MBT 構想の実現に向けた取り組みについて積極的に展開を図っていきます。



MBT の取り組みを紹介する梅田副所長

## 10.26 「MBT 難病克服支援キャンペーン」について討議しました

MBT 研究所運営会議を開催し、「MBT 難病克服キャンペーン」について検討、企画調整を行いました。

キャンペーンの協賛企業が 14 社に増加したことの報告や協賛金の見直し、難病克服支援 MBT 映画祭等について議論を行いました。また、9 月 4 日に開催した「難病克服支援 WEB セミナー」には 400 名の参加があり、3 月に第 2 回開催を計画しています。

会議の中ではその他、MBT 関連企業との産学連携活動や、ベンチャー設立支援の状況報告等が行われ、MBT が着々と浸透している事が感じられました。



MBT 難病克服キャンペーンについて討議

## 10.28 CareTEX 大阪 '21 にて MBT 講演をしました

インテックス大阪で開催された CareTEX 大阪 '21 (2021/10/27 ~ 29) において、MBT 研究所の梅田副所長が、「医学を基礎とするまちづくりとは～少子高齢社会・地方創生に寄与する“まち”の実現に向けて～」と題して MBT 研究所の取り組みを紹介しました。

CareTEX 大阪は、介護のための用品・施設産業・施設ソリューションに関係する様々な立場の事業者が集まる商談型展示会であり、コロナの影響が懸念される中、講演には色々な業種の方々が聴講されました。IoT によるバイタルデータ収集等の実証実験や社会実装への有用性等について、興味深く耳を傾けておられ、講演後には複数の企業の方が名刺交換され、MBT の活動に対する関心の高さが伺えました。



MBT 研究所 梅田副所長講演

## 11.4 V-iClinix 講座第 7 回運営委員会を開催しました

中谷医工計測技術振興財団の長期大型研究助成を活用して設置した寄附講座「V-iClinix 講座(生体 5 次元インフォマティクス国際統合ハブ)」の運営委員会を開催しました。運営委員会は、年 2 回研究成果の確認を行っております。今回の委員会は、6 月と同様 Web での報告となりました。現在取り組んでいる研究の進捗報告や、佐藤教授よりご指導いただいている本学学生については「研究者として着実に成長している」との嬉しい報告をいただきました。コロナの影響で予定通りに行かない中、創意工夫して講座運営されていることが伺えて今後も期待が膨らみます。



運営委員会

11.4  
～5

## 第59回全国自治体病院学会 in 奈良において看護・看護教育分科会を担当しました

第59回全国自治体病院学会「地域医療を守る～チームで挑む、再生と未来～」が、なら100年会館、奈良コンベンションセンターにおいて開催されました。附属病院は看護・看護教育分科会を担当し、吉川公彦病院長が分科会長を務め、県内7つの自治体病院と協力して看護・看護教育分科会テーマ「地域医療を支える看護職の挑戦」を運営しました。

令和2年から続くコロナ禍ではあったが、直前の10月1日に緊急事態宣言が解除されたことから、会場には約2600人の医療従事者の来場がありました。

東京医療保健大学 副学長 坂本すが先生の「看護が社会を変える」と題した特別講演は、看護師は「医療」の視点と「生活の質」の視点を持つ唯一の専門職であり、新たな看護サービスを創造することが期待されているといった内容でした。また、「地域で“その人らしく生きる”を支える」をテーマにしたシンポジウムでは、京都大学医学研究科 緩和ケア看護学分野教授 田村恵子先生より「コミュニティにおけるがんサバイバーシップ支援」、大阪樟蔭女子大学 心理学科教授 高橋裕子先生より「命とところを支える～“新しい私らしさ”との出会い～」、まちのナースステーション八千代統括所長 福田裕子先生からは「笑顔あふれる健やかなまちづくり

に看護の力を」、あそかびハーラ病院 元ビハーラ僧 花岡尚樹先生から「死から生を見つめる～臨床宗教師の活動～」と題して、地域医療を支える様々な対場からの意見と活動の紹介がありました。

一般演題はポスター発表で全国から650題が集まり、看護部からは71演題を発表しました。発表会場は、多くの参加者が集まり活発な意見交換が行われ、コロナ前に戻ったかのような雰囲気でした。演題内容は新型コロナウイルス感染症に関するものが多く、各病院の取り組み内容や工夫点を情報共有できる貴重な機会となりました。また、演題登録において附属病院の各部署が様々な工夫を重ねた取り組みを行っていることを確認できました。そして、後日、附属病院の2演題が優秀演題に選出されました。



特別講演



ポスターセッション

11.5

## 大和平野中央スーパーシティ構想にMBTが参画しています

奈良県主催の大和平野中央スーパーシティ構想キックオフ会議が、奈良春日野国際フォーラム薨で開催されました。スーパーシティ構想は未来の生活を実現するまちづくりを世界に先駆けて進めようと国が提唱しています。これに対し県は、行政や民間企業、有識者ら幅広く専門家を集めて議論するコンソーシアムを設置し、昨年11月5日にキックオフ会議が行われました。

奈良県より本学およびMBTコンソーシアムにも参加の要請があり、会場には、自治体、アカデミア、産業界のメンバー約150人が集まり、荒井正吾奈良県知事の「大和平野中央スーパーシティ構想」の新たな提案に耳を傾けました。

キックオフ会議後の関係者意見交換会で、本学細井理事長は「奈良県立医科大学は18年にわたりMBTに取り組んできた実績があり、構想実現には協力を惜しまない」との表明を行いました。MBTは本プロジェクトに積極的に参加していきます。



協力表明する細井理事長

11.10

## 「職場のダイバーシティ推進研修」を実施しました

奈良県自治研修所と合同で「職場のダイバーシティ推進研修」を実施しました。

2年前より奈良県自治研修所から本学の障害者雇用の実情を県職員に向けた研修ができないかと打診があり、研修を計画することとなりました。本来ならもっと早く実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、この度ようやく実施することができました。

当日は、本学および奈良県から係長級・課長補佐級の職員を中心に56名が受講されました。

本学人事課障害者雇用推進係の岡山係長のほか、障害者雇用推進係の係員5名、看護部森川看護師長が講師となり、受講者からの質問に対して、講師の係員は、自らの障害の特性や業務を行う上で気をつけてもらいたい事などを率直に回答されていました。森川師長から、ともに業務を行う係員への接し方などについて、お話しいただいた後、参加者同士でのグループ討議が行われ、「それぞれの個性・多様性を認める事が相互理解の第一歩」などの発表がありました。



研修会の一コマ

11.13

## 日本蘇生学会の特別企画で「MBT 映画祭関連セミナー」を実施しました

昨年の11月12～13日に、日本蘇生学会第40回大会(会長:川口昌彦、奈良医大麻酔科学教室教授)がホテル日航奈良で開催されました。本大会のテーマは『命とところを蘇生する!!』であり、MBT 難病克服キャンペーンで実施中の「MBT 映画祭2021」のテーマ“みんなで守るいのち”のコンセプトに近いことから、MBT コンソーシアムも共催参加の関連セミナーが特別に企画され、MBT 映画祭審査委員の西尾孔志氏(映画監督)、織田友里子氏(遠位型ミオパチー患者会代表)が特別講演を行いました。MBT 難病克服キャンペーンが各地で盛り上がっています。今後も MBT 研究所では、様々なイベントも通じてキャンペーンを開催します。



西尾監督 (MBT 映画祭審査委員) の特別講演

11.25

## 高度医療技術修得者の認定証交付式について

附属病院では、平成22年6月から医療機器の多様化・高度化に対応できる、専門性の高い臨床工学技士「高度医療技術修得者」を、全国に先駆けて独自で養成しています。また、平成30年4月からは、本学大学院看護学科研究科修士課程に「周麻酔期看護師教育課程」を設置し「周麻酔期看護業務に関する高度医療技術修得者」を養成しています。

今回、臨床工学技士1名及び看護師1名が課程を修了し、認定審査を経て、11月25日に吉川病院長から認定証が交付されました。現在総勢13名の臨床工学技士と3名の看護師が、高度医療技術修得者として麻酔科医と共に周術期領域で活躍し、医師の働き方改革におけるタスクシフトの推進に貢献しています。



左から臨床工学技士 吉田奈緒子さん、看護師 中谷仁美さん

11.25

## 人材交流在宅看護教育プログラムの履修証明書を授与しました

訪問看護師1名と附属病院看護師2名の計3名が「人材交流在宅看護教育プログラム」の全カリキュラムを修了し、小竹在宅看護学教授から、このプログラムを修了したことを証する「履修証明書」が手渡されました。

このプログラムは、在宅看護のリーダーを育成するために、在宅および病院における看護の実験を経験し、互いの現状理解を深めることを目的に、訪問看護師および病院看護師を対象とした人材交流を活用したプログラムです。

今年度からの取り組みにも関わらず3名が受講し、9月1日からの3ヶ月間、講義や演習の他、訪問看護師は附属病院で、附属病院看護師は訪問看護ステーションで実践を重ねました。

今後、それぞれの職場で、このプログラムで得た知見を活かし、病院と訪問看護ステーション間のネットワーク拡大による連携が強化されることを期待しています。



受講生のみなさん

11.25

## 第2回難病克服支援 Web セミナーの企画調整を行いました

MBT 研究所運営会議では、第2回目となる難病克服支援 Web セミナーと MBT 映画祭について企画調整を行いました。

3月5日に行う予定の難病克服支援 Web セミナーでは、日本介助犬協会専務理事の高柳友子先生、東京女子医大小児科の石黒久美子先生に講演をいただく事が決定いたしました。高柳先生は、身体補助犬の普及に代表として尽力されておられ、各地で多くの講演をされています。石黒先生は、ご自身が医師になろうとした経緯や、患者家族の視点から難病医療についてお話をいただきます。

MBT 映画祭については、主に作品募集状況や当日の閲覧希望者数等の報告や、映画祭後の展開について議論を行いました。MBT は、幅広い活動を通じて社会貢献に努めていきたいと思えます。



MBT 研究所運営会議の様子

11.29

## 令和3年度第2回キャンパスミーティングを開催しました

今年度2回目のキャンパスミーティングは、初の試みとして学生による司会進行という新たな形式で開催しました。医学科、看護学科の学生それぞれが司会を担当し、適度な緊張感といつもよりリラックスした雰囲気の中、広く大学生活全般に関する意見交換や議論が行われました。今後も、これまでの開催方法等に拘らず、より参加者が発言しやすい雰囲気づくりを目指していきたいと思えます。



キャンパスミーティングの様子

11.30

## 医学部医学科「Student Doctor 認定証・白衣授与式」を行いました

医学科4年生111名のStudent Doctor認定証・白衣授与式が執り行われました。

最初に細井学長から医師としての将来展望について講話があり、その後、代表学生4名に「Student Doctor 認定証」が手渡されました。

続いて、学長・医学部長・附属病院長・同窓会長からそれぞれに白衣が授与され、学生は真新しい白衣に袖を通したのち、吉川附属病院長からの訓示、國分同窓会長から激励のお言葉をいただきました。

最後に、学生を代表して久保伊澄さんが、これから始まる臨床実習で、真摯に実習に取り組み、医師としての自覚と責任を養っていくことを誓いました。



本学大講堂にて

12.1

## 奈良県ドクターヘリ広報用パンフレットを発行しました

奈良県ドクターヘリは奈良県立医科大学附属病院を基地病院、南奈良総合医療センターを発進基地病院として平成29年から運航を開始しました。運航開始から約5年経過し、改めて県民にドクターヘリの活動内容とその意義についての理解を深めていただくためにパンフレットを作成しました。

平成30年から附属病院ヘリポートの運用を開始しており、関係病院、公的機関へ送付するとともに、日ごろ騒音等を感じておられる近隣住民にも、パンフレットを配布する予定です。

病院HPにも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



10.22  
12.3

## 災害対策本部訓練を実施しました

今年度は、大規模地震が発生したときに想定される情報処理について、災害対策本部要員がどのように対応・処置していくかを検討するための訓練を行いました。

訓練では、災害対策本部を構成する企画、施設管理、教育・研究、物資調達の各班に、被害状況が記されたカードや無線機を通して、建物の被災や怪我人、ライフラインの途絶、備蓄の配布指示等さまざまな情報が付与され、各班員はそれらの情報の整理と状況図の作成、対応の検討、本部員への報告や他班との情報共有等を実践しました。

今後も内容をブラッシュアップして継続的に訓練を実施する予定です。



真剣な面持ちで状況を整理



## 12.10 高大連携教育を推進しています

本学では、高校生の理科に対する興味を高めるため、高校生を対象とした大学での講義、実習の体験学習を行っています。今回は、令和3年12月10日に「分子生物学実験の基礎～制限酵素地図を作ってみよう～」をテーマにして、畝傍高校の生徒10名が参加しました。



実習終了後の参加者

### 生徒感想文一部抜粋

このような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。とても良い時間を過ごすことができました。私は形から入りたいタイプなので、白衣を着てみたかったです。マイクロピペットの操作は細かい作業が好きなので楽しいことでした。ピペティングでは、最初、泡が沢山できてしまいました。しかし、慣れたら上手くできました。また、泡ができたらダメな理由を知ることができました。DNAの電気泳動で小さい溝に反応液を入れる工程が難しかったので、練習があって良かったなと思いました。グラフの書き方が最初はよく分からなかったけど、教えてもらってからはよく分かったので良かったです。プラスミドの制限酵素切断地図がまだよく分からないので、また、学校の授業で詳しく知ってほしいと思います。

(2年理型生物選択生徒)

私は、今回の奈良県立医科大学での分子生物学実習に参加できて、とても良かったと思います。実習は全てが初めてのことで不安でした。でも、大学の先生方の丁寧な用語解説及び使用方法の確認、さらに各工程で練習時間が設けられており、失敗を恐れずに実習を進めることができました。私はプラスミドを入れ忘れてしまい、期待していた結果にならなかったことが少し残念でした。実習内容は、まだ授業では習っていない範囲だったり、習っていても自分がしっかり理解し切れていない内容が多かったりして、大学の先生方のお話がよくわからない部分もありました。しかしながら、今回経験させていただいた内容を忘れずに三学期の授業を聞くことで、さらにこの分野の学びを深めることができそうです。なかなかできない貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

(2年理型生物選択生徒)

## 12.11 MBT ウエルシア薬局 健康ステーションを開催しました

ウエルシア薬局 橿原市中曾司店「ウエルカフェ」にて本学 MBT 研究所が健康ステーションを開催しました。

本学 MBT 研究所の梅田副所長 他メンバーが様々な機器でカラダ・肌の状態などを測定、地域住民の方に健康とまちづくりをテーマとして、日頃から自分らしく健康的な生活できるようにアドバイスをしています。

今回は、エアロビック・トレパチ（福祉向けパチンコ、ハンドルを回す代わりにペダルを漕ぐことで玉を発射）を活用し、身体機能や認知機能の強化、脚の筋力を鍛えながら楽しく参加されました。

参加者の中には、時間を忘れて夢中でペダルをこぎ続けられる方もおられ、エアロビック・トレパチでの開催は大変好評でした。大切なのは継続することです。隔月第二土曜日におこなっていますので、お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

MBT は今後も地域コミュニティを深め、積極的に展開を図っていきたいと思います。



健康ステーションの様子



トレパチの説明をされる梅田副所長

## 12.20 大和平野中央スーパーシティ構想 第1回検討会が行われました

奈良県主催の大和平野中央スーパーシティ構想第1回検討会が、奈良コンベンションセンターにて開催されました。

検討会では、まず経済産業省ヘルスケア産業課の稲邑拓馬 課長より「健康経営とヘルスケア産業の創出」と題して Web 講演があり、健康経営に取り組む企業や成果事例が紹介されました。

本学の細井理事長・学長からは、MBT 活動が一般社団法人 日本経済団体連合会の地域協創アクションプログラムに選定されたことや企業との共同製品開発の実績を紹介し、改めて大和平野中央スーパーシティ構想実現に向け MBT コンソーシアム企業と連携して支援することを表明しました。



意見を述べる細井理事長・学長



会場の様子

12.20

## 奈良県研究開発支援事業に採択されました

本学、DMG 森精機株式会社及び奈良精工株式会社が共同で応募した、「超音波ガイド下手術・手技器具の開発事業」が奈良県研究開発支援補助事業に採択されました。

超音波ガイド下手術とは超音波（エコー）にて画像を確認しながら行う手術の事で、低侵襲で安全な手技として近年注目されており、今後様々な応用が期待されています。

そこで、MBT の技術を結集し、超音波ガイド下による低侵襲治療の一層の普及を図るため、工作機械専門メーカーとして世界最大手の DMG 森精機株式会社等と共同で医療器具の開発を目指すこととなり応募し採択されたものです。補助額は3年間で1億円であり、大型プロジェクトとなります。今後本事業の成果を全国そして世界に発信する予定です。MBT では、今後も企業とともに社会貢献に努めていきたいと思えます。



プロジェクトでの真剣な議論

12.23

## 難病克服支援 MBT 映画祭について討議

MBT 研究所運営会議を開催しました。

「難病克服支援 MBT 映画祭 2021」への募集 48 作品から選ばれた入賞 10 作品の報告があり、映画祭開催後にけいはんなプラザにおいても映画祭当日の受賞作品等を上映する事が決定しました。

会議の中ではその他にも、MBT 産学連携活動やベンチャー企業設立支援状況の報告などもありました。

MBT は、医学を基礎とする社会貢献活動を続けていきます。



難病克服支援 MBT 映画祭について討議

1.4

## 株式会社 MBT 保健医療衛生研究開発機構を奈良医大発ベンチャー企業に認定しました

公衆衛生学講座 今村教授が、大学発ベンチャー企業を設立しました。本学第4号となる株式会社 MBT 保健医療衛生研究開発機構は、保健・医療・衛生政策立案に関する各種指標作成や、保健・医療・衛生に関するデータベース作成・調査研究・コンサルティング等の事業のほか、医療機関の経営や運営についての支援事業などを行います。

今村教授と公衆衛生学講座では長年の研究活動において医療データベースを实用可能段階まで高めた実績と共に、最新の医療政策や医療経営にも精通しており、ベンチャー企業では益々需要が拡大する医療情報の高度利用に対応し、保健・医療・衛生の情報ハブ拠点として少子高齢化社会における先駆的な役割を果たすことで、社会貢献を目指します。

本学では、アントレプレナーシップを身近なものにし、国の方針でもある大学発ベンチャーの起業を積極的に支援しています。志ある教職員の方は、ぜひ産学官連携推進センターまでご相談ください。



認定書を手にする今村代表取締役社長

1.7

## 本学の MBT の取り組みに寄附をいただきました

福岡県に本拠地を持つ新大和漢方株式会社様と佐賀銀行様から MBT 事業や難病克服事業など本学が取り組む事業に対して、ご寄附をいただき、贈呈式を行いました。

当日は、新大和漢方株式会社の役員、佐賀銀行千隈支店長も来学され、細井理事長を交えて、奈良医大が進める MBT 事業について時間が経つのも忘れ意見を交わしました。

特に新大和漢方株式会社様は、全国に広がった MBT 事業に大きな関心を持たれ、今後の連携が楽しみな 1 日となりました。



新大和漢方株式会社、佐賀銀行の皆様と

## 1.8 難病克服支援 MBT 映画祭を開催しました

現在 MBT では希少な疾患ゆえに社会から放置されがちな難病やそれに苦しむ患者様の苦境を多くの方々にご理解いただくための啓発活動として「MBT 難病克服キャンペーン」を推進しています。このたびキャンペーンの一環として、難病などに立ち向かう方々を応援し勇気づけるような映像作品を全国から募集し上映する「難病克服支援 MBT 映画祭」を橿原文化会館にて開催し、200 名の参加がありました。

「みんなで守るいのち」をテーマに、難病などを克服した患者や家族の経験などを描いた映像作品を昨年 10 月より 2 ヶ月間全国から募集し、48 本の作品が集まりました。映画祭当日は、この中から 10 本を入賞作品として上映し、この日の最終審査で最優秀作品等を決定し、200 名の参加がありました。

当日は、主催者を代表して細井裕司理事長から、「本映画祭は初の試みでしたが、全国から“みんなで守るいのち”のテーマにふさわしいたくさんの作品応募があり、本日の上映と最終審査が楽しみです。」との挨拶がありました。



開会の挨拶を行う細井理事長



監督達による最終審査

最優秀作品等の審査は、2018 年野村萬斎が主演を務めた『花戦さ』で第 41 回日本アカデミー賞優秀監督賞を受賞された映画監督の篠原哲雄氏を審査委員長に迎え、映画監督のとしおかたかお氏、西尾孔志氏、難病の患者会代表の織田友里子氏、本学脳神経内科学杉江和馬教授、医療安全推進室辰巳満俊病院教授、橋口智子看護部長が審査委員として、それぞれの専門の視点から審査を行いました。

審査の結果、最優秀賞には、車椅子の女性の日常を描いた「バリアフルライフ」が選ばれ、作品代表者の山村もみ夫。さんは「第 1 回目の映画祭で最優秀作品賞を受賞させていただき大変光栄です。」と歓喜の想いを述べられていました。その他の受賞作品は次のとおりです。

### 最終審査結果

賞名	タイトル	作品監督名
最優秀賞	「バリアフルライフ」	山村もみ夫。
優秀賞	「文字盤の先に」	木寺智裕
特別賞	「パンにジャムをぬること」	大塚菜々穂
	「それでも、洗う」	寺谷千穂

また、今回の映画祭のため本学医学科 5 年生の中前和さんらは西尾監督の支援のもと、自分たちで初めての映画を製作しました。パーキンソン病や ALS の患者さんが、趣味のボウリングに再び挑戦する姿や車椅子でダンスを行う姿を通じて「豊かに生きるとは何か」を問いかけた作品に仕上げ、映画祭の中で特別上映を行いました。

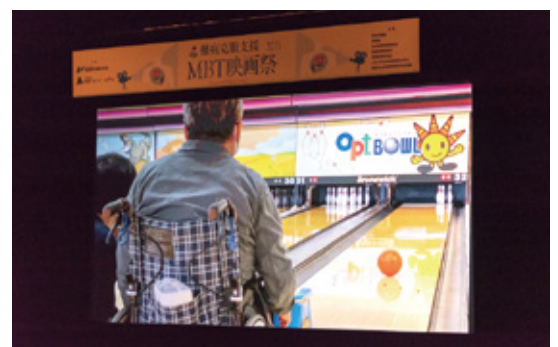
その後、篠原監督、としおか監督、西尾監督および入賞者 10 名と本学学生の中前さんによるトークセッションも行い、西尾監督進行のもと入賞者の方々が今回の応募作品に対する熱い想いを述べられました。

映画祭には、報道関係者も高い関心を持っていただき、テレビ局のカメラや新聞記者が入り、当日の様子はニュース番組や各新聞で報道されました。

MBT では今回の映画祭を皮切りに、今後とも映画作品を通じて難病克服に向けた社会啓発活動を推進していく予定で、その第一段として、3 月 19 日(土)に関西文化学術研究都市で毎月開催の映画劇場に今回の映画祭作品の無料上映を予定しています。今後、2 回、3 回の映画祭を企画しています。



左から細井理事長、最優秀賞の山村もみ夫。氏、篠原監督



本学学生の作品の特別上映

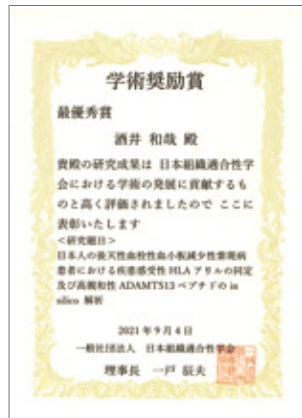
# Winner Report

9.4

## 第29回日本組織適合性学会大会にて 学術奨励賞最優秀賞を受賞しました

輸血部 博士研究員 酒井 和哉  
(ベルギー KU Leuven 留学中)

この度、第29回日本組織適合性学会大会において発表演題「日本人の後天性血栓性血小板減少性紫斑病患者における疾患感受性HLAアレルの同定及び高親和性ADAMTS13ペプチドの検討」に対して学術奨励賞最優秀賞を受賞しました。受賞を励みとして今後も組織適合性分野の発展に貢献すべく研究活動に邁進いたします。この賞を受賞するにあたり、ご指導いただきました松本教授をはじめ関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



9.11

## 第233回日本内科学会近畿地方会で 若手奨励賞(優秀演題賞)を受賞しました

脳神経内科学 後期研修医 菊辻 直弥

Web開催となった第233回日本内科学会近畿地方会における若手奨励賞セッション(口演発表)で、本学脳神経内科学講座の菊辻直弥後期研修医が、演題「皮質形成異常を伴う難治性てんかんを呈したトリプルX症候群の1例」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。トリプルX症候群における難治性てんかんの原因究明と発症機序を考える上で貴重な症例報告でした。今後の脳神経内科の診療・研究の励みとなり、さらなる活躍を期待しています。



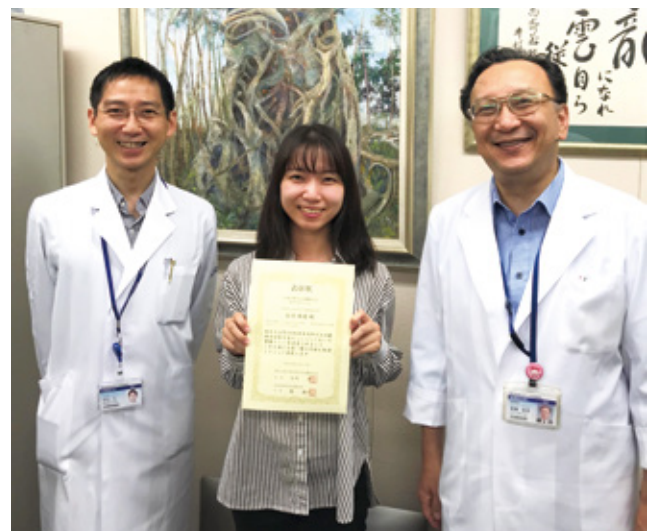
9.11

## 第233回日本内科学会近畿地方会において 医学生セッション発表賞を受賞しました

医学科6年(循環器内科学) 谷河 璃香

日本内科学会の近畿地方会医学生セッションにて症例発表をさせて頂きました。初めての学会発表で、スライド準備の段階から先生方には大変お世話になりました。臨床実習中での印象深い症例でしたので、オンライン発表ではありましたが、1つの症例から深く学ぶことの重要性を実感し、貴重な経験となりました。

このような経験を与えてくださいました、斎藤教授、中川先生、紀川先生をはじめ循環器内科の全ての先生方に深く感謝致します。



9.25

## 第83回日本血液学会学術集会にて 日本血液学会奨励賞を受賞しました

輸血部 博士研究員 酒井 和哉  
(ベルギー KU Leuven 留学中)

この度、Web上で開催されました第83回日本血液学会学術集会におきまして、日本血液学会奨励賞を受賞いたしました。同賞は血液学に関する研究の進展と知識の普及を図るため、学問的に優れた若手研究者に対し与えられるものです。ご指導いただいた松本教授はじめ多くの先生方、そして家族の支えがあったからこそ、今回受賞することができました。この場をお借りして深くお礼申し上げます。今回の受賞を励みに、今後、臨床につながる研究をすべく益々精進したいと思います。



10.2

## 第25回日本神経感染症学会総会・学術大会で最優秀口演賞を受賞しました

脳神経内科学 後期研修医 菊辻 直弥

Web開催となった第25回日本神経感染症学会総会・学術大会で、本学脳神経内科学講座の菊辻直弥後期研修医が、演題「免疫チェックポイント阻害剤投与下に生じた中枢神経障害3例」を発表し、本学会の最高賞である最優秀口演賞を受賞しました。近年注目の免疫チェックポイント阻害剤による中枢神経障害における病態機序と治療方針を考慮する上で重要な発表でした。今後、さらに脳神経内科学の臨床力・研究力向上へ精進してほしいと思います。



10.2

## 第45回リザーバー & ポート研究会で優秀演題賞を受賞しました

放射線診断・IVR学 医員 北内 真理子

2021年10月1日～2日にかけてWeb開催で行われた、第45回リザーバー & ポート研究会で優秀演題賞を受賞しました。発表内容は、「全身化学療法不応後の転移性肝癌に対するイリノテカン溶出性ビーズTACEとリザーバー肝動注の併用療法」です。これからもIVRで癌患者さんの治療に貢献できるよう、より一層の努力を重ねていきたいと思っています。この場をお借りしてご指導頂いた田中利洋教授はじめ、放射線診断・IVR学教室の先生方に感謝申し上げます。

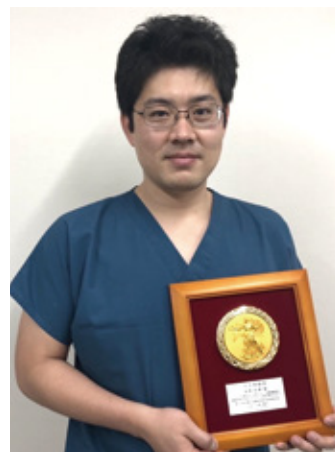


10.8

## 第137回 中部日本整形外科災害外科学会にて学会奨励賞を受賞しました

整形外科学 大学院生 須賀 佑磨

10月8日～10月9日にWebで開催された第137回中部日本整形外科災害外科学会にて学会奨励賞を受賞しました。演題名は、「外側環軸関節の関節症性変化出現にはどのような要因が関与するか?」です。今回の研究は、日常診療で見逃されやすい外側環軸関節に焦点を当てたもので、高齢者の頸部痛の早期診断の一助になるものと考えています。このような光栄な賞を頂いたのは、ご指導いただいた田中教授、重松先生をはじめ、奈良県立医科大学整形外科の皆様のご指導・ご支援を賜りました結果と考えております。この場を借りまして、皆様に深く感謝申し上げます。



10.15

## 厚生労働大臣表彰を受けました

保健体育 特任教授 岸本 年史

埼玉県県民健康センターで行われた第68回精神保健福祉全国大会で岸本年史特任教授・秋津鴻池病院院長が精神保健福祉事業功労者表彰を厚生労働大臣から受けました。公益社団法人日本精神福祉連盟推薦で本学教授・奈良県精神保健福祉協会会長としての地域医療への長年の貢献が評価されたものです。現在も地域医療への貢献・医師会活動などとともに本学で精神疾患のハイリスクの発症予防の研究を中心に研究活動を行っております。



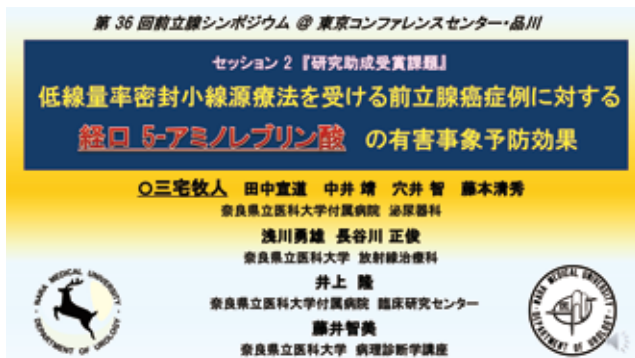
## Winner Report

10.16

## 前立腺研究財団研究助成 最優秀課題賞を受賞し成果報告を行いました

泌尿器科学 講師 三宅 牧人

このたび、前立腺研究財団研究助成『最優秀課題賞』をいただき、10月16日第36回前立腺シンポジウム(Web形式)で成果報告を行いました。受賞課題は「低線量率密封小線源療法を受ける前立腺癌症例に対する経口5-アミノレブリン酸の有害事象予防効果」です。前立腺癌に対する放射線治療によって引き起こされる尿路・糞路障害を5-アミノレブリン酸が抑制し得ることを、特定臨床研究(認定番号CRB52000022)において検証いたしました。本研究の遂行にあたっては、本学放射線治療科、臨床研究センターの先生方をはじめ、多くの方々のご支援を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。

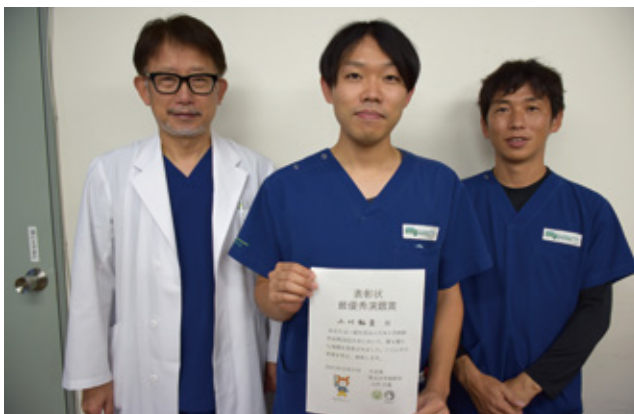


10.17

## 第26回日本小児麻酔学会において最優秀演題賞を受賞しました

麻酔科学 診療助教 小川 裕貴

この度、「2歳未満の小児における脊椎脊髄手術での術中運動誘発電位モニタリングの信頼性の検討」に関する研究に対して、第26回日本小児麻酔学会において最優秀演題賞を受賞いたしました。今回の受賞を励みとして、今後も臨床および研究に邁進していく所存です。本受賞にあたり、ご指導いただきました川口教授、林講師をはじめ、麻酔科学教室や関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



10.20

## IJCO 優秀論文に選出され、第21回日本癌治療学会研究奨励賞を受賞しました

泌尿器科学 講師 三宅 牧人

このたび、2020年度『International Journal of Clinical Oncology 優秀論文 日本癌治療学会研究奨励賞』を受賞いたしました。本賞は、がん治療に関する研究発表を奨励し、研究者を積極的に育成することを目的として2001年に創設されました。様々な病態が混在する膀胱がんという疾患において、適切な治療を選択するためには邦人症例独自のリスク分類手段は必要不可欠です。本受賞論文は、西日本ウロオンコロジーグループによる多施設共同研究であり、数千症例の膀胱がんの情報をもとに、予後予測に関する正確なリスク分類表を作成し報告したものです。今後、この分類表が広く使用され、膀胱がん診療の一助になればと存じます。本研究の遂行にあたっては、京都府立大学生物統計学教室、山口大学泌尿器科学教室の先生方をはじめ、多くの方々のご支援を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。



10.31

## 第47回神経内分泌学会学術集会で臨床神経内分泌ポスター最優秀賞を受賞しました

医学科4年(糖尿病・内分泌内科学) 馬井 智大

第47回神経内分泌学会学術集会(10月30～31日に開催)の若手臨床症例演題のセッションで臨床神経内分泌ポスター最優秀賞を受賞しました。受賞演題は「褐色細胞腫摘出後に劇的に意識障害が改善した1例」です。本発表は、傍腫瘍症候群として意識障害を呈したと考えられた褐色細胞腫の1例について、文献的考察・髄液の解析結果と共に報告したものです。臨床から研究へとつながっていく事の難しさと面白さを痛感する事の出来た、非常に学びのある症例で、今後も原因究明に向け、邁進していく所存です。本発表にあたり、ご指導を賜りました糖尿病内分泌内科の高橋裕教授、樽松由佳子先生、総合診療科の中村友洋先生をはじめとする、糖尿病内分泌内科、総合診療科、泌尿器科の先生方に心より感謝申し上げます。

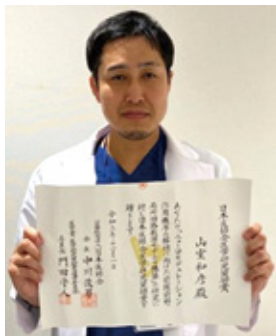


11.1

## 2021年度日本医師会 医学研究奨励賞を受賞しました

精神医学 学内講師 山室 和彦

この度、今まで私が奈良県立医科大学で行ってきた幼若期隔離マウスの電気生理学的特徴 (Yamamuro et al. Cerebral cortex. 2018) から、海外留学で行った同マウスの社会行動異常のレスキュー (Yamamuro et al. Nat neuroscience 2020)、そして今後奈良県立医科大学で行う経頭蓋磁気刺激法 (rTMS) のメカニズムの解明に向けた取り組みを評価して頂き、日本医師会 医学研究奨励賞を受賞することができました。これはホールセルパッチクランプと光遺伝学を組み合わせたデータから数理モデル構築を行い、マウスを用いて検証を試みようとしているものになります。今回の日本医師会医学研究奨励賞は奈良県立医科大学精神医学講座として、昨年の牧之段准教授に引き続き2年連続頂くことができました。これも精神科の諸先輩方が臨床研究だけでなく基礎研究にも力をいれ、業績を蓄積してきたからこそであると思います。この場をお借りして皆様に深く御礼申し上げます。

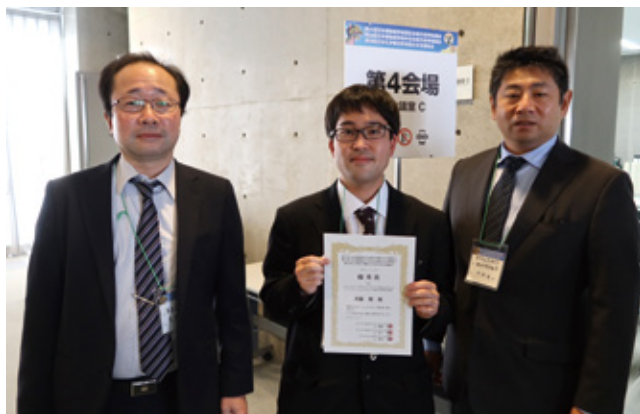


11.6

## 第69回日本化学療法学会西日本支部総会 学生セッションで優秀賞を受賞しました

医学科5年 (微生物感染症学) 齊藤 開

第69回日本化学療法学会西日本支部総会 (11月5日~7日に開催) の学生セッションにて、昨年に引き続き優秀賞を受賞しました。受賞演題は、「カルバペネマーゼ IMI-16 と IMI-18 を同時に産生する *Enterobacter roggenskampii* の遺伝学的特徴の解明」です。本研究は、これまで報告例のない薬剤耐性遺伝子を持つ耐性菌の耐性機構を明らかにするというものです。本発表にあたりご指導頂きました矢野教授と中野准教授をはじめ、微生物感染症学講座の皆様方に深く感謝致します。



11.12

## 武田特定研究助成に採択されました

未来基礎医学 准教授 森 英一朗

この度、「生物学的相分離から明らかにする神経疾患の分子病態」と題した研究課題が、武田科学振興財団「2021年度 特定研究助成」(4500万円)に採択されました。分担者の吉澤拓也先生 (立命館大学) と齋尾智英先生 (徳島大学) および協力者の杉山正明先生 (京都大学) と共に、生物学的「相分離」の「駆動・制御・破綻」の分子構造動態を明らかにすることで神経疾患の発症機序の理解を深め、治療法の開発につなげていくことを目指します。



11.25

## 令和3年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました

奈良県医師会館において、令和3年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞式がありました。奈良県医師会学術奨励賞は、奈良県における若き医学徒の学術を奨励するために、大学卒業後12年以内であり、かつ有意義な研究成果をあげ、後進の指導にも熱意を有する者に奈良県医師会より贈呈される賞です。

本学からは、下記3名の先生方が受賞されました。

本学術奨励賞は、毎年6月頃に応募の案内をしております。若手研究者の方々の積極的なご応募をお待ちしております。

疫学・予防医学	助教	田井 義彬
整形外科学	診療助教	川崎 佐智子
循環器内科学	医員	石原 里美



左より田井先生、川崎先生、石原先生

## 11.4-7 第29回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2021 KOBE)

## 11.5 ポスター優秀演題賞を受賞しました

中央内視鏡部 (消化器内科学) 診療助教 小堤 隆広

この度、2021年11月4日～7日まで神戸で開催された第29回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2021 KOBE) の消化器内視鏡学会ポスター発表セッションにおきまして、「ポスター優秀演題賞」を受賞いたしました。演題名は「TS1 膵癌における超音波内視鏡診断の現状と課題」です。過去に当科で経験した2cm以下の小膵癌 (TS1 膵癌) の症例において、患者背景や各種画像検査などの臨床的特徴について後方視的に検討を行い、膵癌の早期発見のために超音波内視鏡検査 (EUS) が重要な役割を果たすことを報告いたしました。本研究にあたり吉治教授ならびに美登路先生、北川先生をはじめ消化器内科学講座の諸先生方よりご指導、ご支援をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。本受賞を励みに、今後の研究・日常診療において、なお一層精進してまいります。



## 11.4 デジタルポスター優秀演題賞並びに若手奨励賞を受賞しました

消化器内科学 医員 榎本 壮秀

この度、JDDW2021におきましてデジタルポスター優秀演題賞、並びに若手奨励賞を受賞致しました。演題は「Acute on chronic liver failure (ACLF) 発症予測因子としてのVWF/ADAMTS13 比の有用性」です。ACLFは肝硬変の状態に他因子が増悪因子として加わることで急激に肝不全が進行する重篤な疾患であり、病態には微小循環障害の関与が報告されています。血液凝固因子であるVWFとその切断因子であるADAMTS13の比 (V/A比) のACLFの発症予測バイオマーカーとしての可能性を検討した報告です。今回の発表に際しご指導を頂きました吉治教授、ならびに多数の先生方に厚く御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## 11.5 若手奨励賞を受賞しました

消化器内科学 医員 竹田 惣一

この度、11月4日から7日に神戸で開催された第29回日本消化器関連学会週間 (JDDW) において、若手奨励賞を受賞いたしました。受賞演題は「肝疾患に合併した二次性サルコペニアに対するBCAAとARBの併用効果に関する基礎的検討」です。肝疾患に伴うサルコペニアは、病態、予後に大きく関わることが明らかになってきており、分岐鎖アミノ酸製剤であるBCAAと、降圧薬として広く用いられているAngiotensin II Receptor Blocker (ARB) を併用することで、非アルコール性脂肪性肝炎 (NAFLD) に伴う筋萎縮が抑制されることを示し、その機序について検討しました。今回の発表に際し多くのご指導をいただきました。吉治教授はじめ、たくさんの先生方に、厚く御礼申し上げます。この受賞を励みに今後も研究、臨床に邁進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 12.10 「The Best Presenter Award in International Session」を受賞しました

消化器内科学 助教 西村 典久

この度、2021年11月4日～7日まで神戸で開催された第29回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2021 KOBE) の International Session Symposiumにおきまして、「The Best Presenter Award in International Session」を受賞いたしました。演題名は「Chitinase-3 like 1 is a profibrogenic factor overexpressed in the aging liver and in patients with liver cirrhosis」です。2020年3月まで米国NIHに研究留学させていただいた際に行っていた研究成果で、加齢とともに肝内発現が上昇するCHI3L1という因子がバイオマーカーとしての役割だけではなく、肝線維化進展を促進させる直接的な増悪因子として重要な役割を果たすことを明らかにしたものです。当科では継続的に海外への研究留学生者を派遣しており、自身もこれによって有意義な成果を上げることができ、今回の受賞につながったと考えております。本受賞を励みに、本学における研究発展の一助となるよう今後も精進して参ります。

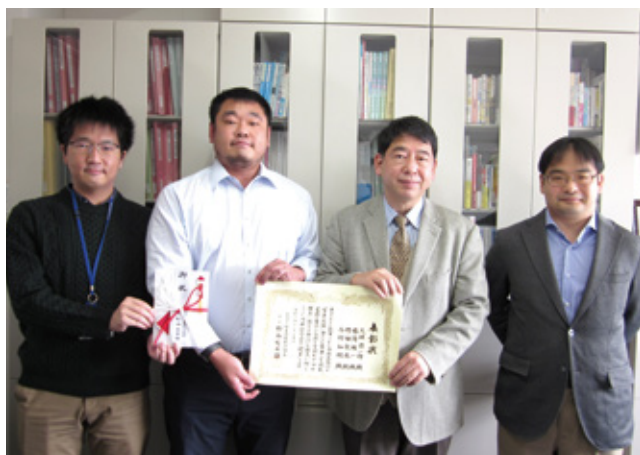




## 11.25 厚生指標に掲載された論文が川井記念賞(旧 厚生統計研究奨励賞)を受賞しました

公衆衛生学 大学院生 久保 慎一郎

厚生指標 2020年2月号(Vol.67)に掲載された論文「墓数の推計と今後の予測モデルの確立に関する検討」が川井記念賞(旧 厚生統計研究奨励賞)を受賞し、11月25日に厚生労働統計協会にて授賞式が行われました。この論文は、高齢化が進む日本で墓数の将来予測シミュレーションを行い、未継承墓(無縁仏)が大幅に増え、あふれかえってしまうという今後を予測し、墓政の見直しを提言したものです。論文を指導下さった公衆衛生学講座の今村教授と、共著者の先生方、原案の検証にご協力をいただいた三宅さんに感謝申し上げます。



## 12.1 第107回北米放射線学会(RSNA)のEducation ExhibitにおいてCertificate of Meritを受賞しました

放射線診断・IVR学 助教 南口 貴世介

この度、令和3年11月28日から12月2日開催されました第107回北米放射線学会(RSNA)のEducation ExhibitにおいてCertificate of Meritを受賞させて頂きました。演題名は「Precancerous Lesions Of Gastrointestinal, Hepatobiliary And Pancreatic Carcinoma: A Primer For Radiologists」であり、前癌病変の早期発見に繋がる画像所見に焦点を当て作成した演題となっています。受賞に際しまして、ご指導頂きました伊藤先生・丸上先生、病理診断学講座の森田先生にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

## 12.16 医学教育等関係業務功労者表彰

看護部 看護指導主査 高橋 浩子  
中央放射線部 係長 野儀 明宏

この度、上記の方々が発令3年度医学教育等関係業務功労者表彰を受賞しました。

この賞は、大学における医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る業務に長年従事され、顕著な功績のあった方を対象に、文部科学省より授与されています。

## 12.23 国際ソロプチミスト奈良—あすか女性研究者賞を受賞しました

病理診断学 助教 内山 智子

ソロプチミスト日本財団では、様々な分野で将来性のある研究をしている有能な女性を支援し、さらなる女性の活躍への足掛かりとなる機会を与えることを目的に女性研究者賞を授与されています。

この度、女性研究者・医師支援センターからの推薦により、本学病理診断学講座の内山智子助教が「子宮平滑筋肉腫におけるATRX発現とその機能及び分子機構の解明」という研究テーマで国際ソロプチミスト奈良—あすか女性研究者賞を受賞されました。

令和3年12月23日に表彰式が執り行われ、国際ソロプチミスト奈良—あすかの牧浦敬子会長から賞状と賞金が授与されました。当センターでは今後も優秀な女性研究者の活躍を応援していきたいと思っております。



左から嶋センター長、内山助教、須崎マネージャー

# Winner Report

## 令和3年度 外部資金獲得状況

151件 453,499,626円(間接経費を含む)(令和3年12月1日現在) ※文部科学省科学研究費助成事業を除く

### (1) 厚生労働科学研究費補助金

#### ① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
難治性疾患政策研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	日本の輸血医療における指針・ガイドラインの適切な運用方法の開発
政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	新しいチーム医療等における医療・介護従事者の適切な役割分担についての研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	循環器病の医療体制構築に資する自治体が活用可能な指標等を作成するための研究
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究
食品の安全確保推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	新型コロナウイルス感染症対策に取組む食品事業者における食品防御の推進のための研究
地域医療基盤開発推進研究事業【繰越分】	公衆衛生学	教授	今村 知明	地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究
エイズ対策政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	HIV感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究

#### ② 研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
エイズ対策政策研究事業	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	HIV感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究	公衆衛生学 野田 龍也
政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	講師	岡本 左和子	新しいチーム医療等における医療・介護従事者の適切な役割分担についての研究	公衆衛生学 今村 知明
	麻酔科学	講師	内藤 祐介		
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	循環器病の医療体制構築に資する自治体が活用可能な指標等を作成するための研究	公衆衛生学 今村 知明
		助教	西岡 祐一		
	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之		
		講師	山田 修一		
循環器内科学	講師	添田 恒有			
難治性疾患政策研究事業	皮膚科学	講師	宮川 史	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	皮膚科学 浅田 秀夫
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	准教授 助教	野田 龍也 西岡 祐一	地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究	公衆衛生学 今村 知明
難治性疾患政策研究事業	脳神経内科学 リハビリテーション医学	教授	杉江 和馬	スモンに関する調査研究	鈴鹿病院 久留 聡
准教授		眞野 智生			
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	地域医療構想を見据えた救急医療提供体制の構築に関する研究	国立病院機構本部 小井土 雄一
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	糖尿病の実態把握と環境整備のための研究	東京大学 山内 敏正
難治性疾患政策研究事業	糖尿病・内分泌内科学	教授	高橋 裕	性分化・性成熟異常を伴う内分泌症候群(プラダウーリ症候群・ヌーナン症候群を含む)の診療水準向上を目指す調査研究	浜松医科大学 緒方 勤
難治性疾患政策研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	血液凝固異常症等に関する研究	金沢大学 森下 英理子
難治性疾患政策研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	希少難治性筋疾患に関する調査研究	東北大学 青木 正志
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療専門職の実態把握に関する研究	東京医療保健大学 小野 孝二
		講師	岡本 左和子		
		助教	西岡 祐一		
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	適切な睡眠・休養促進に寄与する「新・健康づくりのための睡眠指針」と連動した行動・習慣改善ツール開発及び環境整備	国立精神・神経医療研究センター 栗山 健一
政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究	摂南大学 小川 俊夫
政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	臨床疫学に活用可能な NDB 等データセットの作成に関する研究	京都大学医学部附属病院 森 由希子
		准教授	野田 龍也		
厚生労働科学特別研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	地域の合意形成を加速化させるデジタルトランスフォーメーションの実現のための研究	千葉大学 佐藤 大介
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療の質評価と医療情報の提供に関する調査研究	聖路加国際大学 福井 次矢
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	循環器病対策推進基本計画に基づいた、都道府県の有用な目標指標の設定のための研究	神戸大学 平田 健一
	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之		
難治性疾患政策研究事業	糖尿病・内分泌内科学	教授	高橋 裕	間脳下垂体機能障害に関する調査研究	名古屋大学 有馬 寛
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業)	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門	助教	谷 有貴	ドナーミルクを安定供給できる母乳バンクを整備するための研究	昭和大学 水野 克己
難治性疾患政策研究事業	整形外科	病院教授	谷口 晃	早老症のエビデンス集積を通じて診療の質と患者QOLを向上する全国研究	千葉大学 横手 幸太郎
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	感染症センター	病院教授	笠原 敬	成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの充実化に資する研究	富山県衛生研究所 大石 和徳

エイズ対策政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	HIV・エイズの早期治療実現に向けての研究	千葉大学 谷口 俊文
免疫・アレルギー疾患政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤及び評価基盤の構築	国立成育医療研究センター 森田 英明
難治性疾患政策研究事業	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	特発性心筋炎に関する調査研究	九州大学 筒井 裕之
難治性疾患政策研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	難治性血管炎の医療水準・患者 QOL 向上に資する研究	東京女子医科大学 針谷 正祥
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	総合画像診断センター	病院教授	平井 都始子	我が国における公衆衛生的観点からの健康診査の評価と課題	東京慈恵会医科大学 和田 高士
難治性疾患政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	指定難病の普及・啓発に向けた包括的研究	国立大学法人金沢大学 和田 隆志
エイズ対策政策研究事業	小児科学	教授	野上 恵嗣	HIV 感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究	国立病院機構大阪医療センター 渡邊 大
がん対策推進総合研究事業	消化器・総合外科学	教授	庄 雅之	学会連携を通じた希少癌の適切な医療の質向上と次世代を担う希少がん領域の人材育成に資する研究	名古屋大学 小寺 泰弘
肝炎等克服政策研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	肝がん・重度肝硬変の治療に係るガイドラインの作成等に資する研究	東京大学 小池 和彦
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	健康増進に向けた住宅環境整備のための研究	北海道大学 林 基哉
難治性疾患政策研究事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	難治性聴覚障害に関する調査研究	信州大学宇 佐美 真一
がん対策推進総合研究事業	産婦人科学	教授	木村 文則	小児・AYA 世代がん患者に対する生体機能温存に関わる心理支援体制の均てん化と安全な長期検体保管体制の確立を志向した研究-患者本位のがん医療の実現を目指して	金沢大学 和田 隆志
難治性疾患政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	指定難病の普及・啓発に向けた包括的研究	金沢大学 和田 隆志
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	公衆衛生学	准教授 教授	野田 龍也 今村 知明	新興・再興感染症のリスク評価と危機管理機能の実装のための研究	国立感染症研究所 齋藤 智也
地域医療基盤開発推進研究事業	救急医学	教授	福島 英賢	救急医療等における基盤整備のための情報項目等の標準化に資する研究	東北大学久 志本 成樹

## (2) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)

### ① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	世界最大劇症型心筋炎レジストリを用いた長期疫学調査及び予後予測モデルの開発
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	講師	尾上 健児	特発性心筋炎の診療に直結するエビデンス創出のための AI を活用した自動病理診断システムの開発～希少・分類不能心筋炎の自動抽出システムの開発～
革新的先端研究開発支援事業	精神医学	准教授	牧之段 学	早期ライフステージにおける前頭前野の髄鞘形成は社会性を制御するののか？
肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	肝腎症候群の新たな病態解析と治療開発-血栓性微小血管障害に基づく機序と遺伝子組み換え ADAMTS13 療法-
橋渡し研究プログラム	化学	教授	酒井 宏水	備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究
脳とこころの研究推進プログラム	未来基礎医学	准教授	森 英一朗	相分離破綻に起因する神経変性疾患に関する研究開発
脳とこころの研究推進プログラム	精神医学	学内講師	山室 和彦	前頭前野マイクロサーキット数理モデル構築によるニューロモジュレーション作用機序の解明

### ② 研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	心筋病理組織画像の AI 診断支援アルゴリズムの開発・AI による判定処理部及び実証システム開発	循環器内科学 尾上 健児
難治性疾患実用化研究事業	病理診断学	教授	大林 千穂	心筋病理組織画像の AI 診断支援アルゴリズムの開発	循環器内科学 尾上 健児
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	講師	鍛冶 孝祐	遺伝子改変マウスを用いた肝腎症候群の発症、病態における vWF/ADAMTS13 の役割解析	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	助教	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	講師	浪崎 正	肝腎症候群に対するアルブミン製剤+遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 製剤による治療効果の検討 (医師主導試験)	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	高谷 広章	肝腎症候群に対するアルブミン製剤投与の効果予測における血清 vWF/ADAMTS13 活性測定の有用性	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	ADAMTS13/vWF 二重欠損マウスの作製および phenotype の評価	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	准教授	赤羽 たけみ	肝腎症候群に対するアルブミン製剤投与の効果予測におけるレニン・アンジオテンシン系因子測定の有用性	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	講師	守屋 圭	肝腎症候群に対するアルブミン製剤投与の効果予測における血管関連マーカー測定の有用性	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	地域医療支援・教育学講座	講師	瓦谷 英人	肝腎症候群に対するアルブミン製剤投与によるエンドトキシン活性、MΦマーカーの動態変化解析	消化器内科学 吉治 仁志
医薬品等規制調和・評価研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	薬剤性間質性肺炎・重症薬疹に関するバイオマーカー候補の適格性確認と規制要件案の作成に関する研究	国立医薬品食品衛生研究所 斎藤 嘉朗
橋渡し研究プログラム	輸血部	教授	松本 雅則	Phase 1 試験の結果を踏まえた Phase 2 試験のプロトコル詳細の策定	化学 酒井 宏水
橋渡し研究プログラム	小児科学	教授	野上 恵嗣	人工赤血球製剤の流動条件下における血液止血凝固系への影響	化学 酒井 宏水

## Winner Report

臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業	病理診断学	教授	大林 千穂	腫瘍細胞比率の判定ができる AI 開発	一般社団法人日本病理学会 北川 昌伸
ゲノム医療実現バイオバンク活用 プログラムゲノム医療実現推進 プラットフォーム事業先端ゲノム研究開発	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	マルチオミックス連関による循環器疾患における次 世代型精密医療の実現	東京大学 小室 一成
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	講師	尾上 健児	難治性心血管疾患におけるマルチオミックス解析に よる病態解明と精密医療	東京大学 小室 一成
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	講師	尾上 健児	ゲノム分子病理解析による難治性心筋症における精 密医療の実現	東京大学 小室 一成
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	講師	尾上 健児	オールジャパン拡張型心筋症ゲノムコホート研究に よるゲノム医療の発展	東京大学 野村 征太郎
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策 実用化研究事業	循環器内科学	講師	尾上 健児	DNA 損傷応答・核形態の機械学習による心不全の予 後・治療応答予測モデルの構築	東京大学 小室 一成
難治性疾患実用化研究事業	未来基礎医学	助教	菊池 壮太郎	変異型 RNA 結合タンパク質による相分離の生物物理 学的研究開発	立命館大学 吉澤 拓哉
ゲノム医療実現バイオバンク活用 プログラムゲノム医療実現推進 プラットフォーム事業先端ゲノム研究開発	腎臓内科学	教授	鶴屋 和彦	DKD、CKD・腎硬化症バイオバンク構築 / 糖尿病性 腎症及び腎臓病患者の既存コホートからのゲノム取 得と解析 20km0405210s0903	川崎医科大学 柏原 直樹
創薬基盤推進研究事業	血栓止血医薬生物学 共同研究講座	助教 (共同研究講座)	坂田 飛鳥	アプタマーの生体での効果と毒性の確認 20ak0101130s0101	東京大学 吉本 敬太郎
難治性疾患実用化研究事業	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	液-液相分離の制御と破綻の新規因子の探索・機能解 析に関する研究	徳島大学 齋尾 智英
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策 実用化研究事業	腎臓内科学	教授	鶴屋 和彦	透析患者コホートをを用いた実証試験、プロペンシテ ィスコアマッチングを用いた検証	川崎医科大学 柏原 直樹
難治性疾患実用化研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	BMD 自然歴前向き調査研究 (骨格筋・呼吸筋障害)	まつもと医療センター 中村 昭則
長寿・障害総合研究事業 障害者対策 総合研究開発事業 (精神障害分野)	保健体育	特任教授	岸本 年史	奈良県における AYA 世代の援助希求者と睡眠マネジ メントに関する研究	東邦大学 根本 隆洋
難治性疾患実用化研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	非進行例を対象とする自然歴研究	大阪大学 高橋 正紀
エイズ対策実用化研究事業	小児科学	教授	野上 恵嗣	高機能型凝固因子の開発と血友病に対する多面的ア ウトカム評価の創出	自治医科大学 大森 司
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	高ずり応力による消化管血管異形成形成・消退に関 する実態解明 (臨床)	東北大学 堀内 久徳
革新的がん医療実用化研究事業	成人慢性看護学	教授	田中 登美	せん妄対応プログラムの実装方法の検討	国立がん研究センター 小川 朝生
肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	肝硬変患者に対する DAA 治療と ADAMTS13/ VWF 動態の検討	大阪大学 竹原 徹郎
戦略的国際脳科学研究推進プログラム	精神医学	准教授	牧之段 学	多施設による遠隔臨床研究システムの運用	東京大学 笠井 清登
振興・再興感染症に対する革新的 医薬品等開発推進研究事業	免疫学	教授	伊藤 利洋	新型コロナウイルス感染試験を用いた薬効/毒性評価	東京理科大学 松島 綱治
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策 実用化研究事業	未来基礎医学	准教授	森 英一朗	中間径フィラメントの評価、液-液相分離の評価	筑波大学 山城 義人
脳とこころの研究推進プログラム精神・ 神経疾患メカニズム解明プロジェクト	精神医学	准教授	牧之段 学	精神病理関連ヒト T 細胞プロファイリング	神戸大学 内匠 透
難治性疾患実用化研究事業希少難治性疾 患の診療に直結するエビデンス創出研究 (エビデンス創出)	循環器内科学	講師	尾上 健児	不顕性慢性心筋炎レジストリー構築、遷延性慢性心筋 炎レジストリー構築	三重大学 今中 恭子
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	難治性腎疾患の疾患・重症度分類の再定義に向けた研 究開発	名古屋大学 丸山 彰一
臨床研究・治験推進研究事業生物 統計学育成推進事業	臨床研究センター	病院教授	笠原 正登	コース終了後の卒業教育プログラムの構築	京都大学 佐藤 俊哉
エイズ対策実用化研究事業	健康管理センター	病院教授	古西 満	免疫再構築症候群 (IRIS) の基礎的・臨床的検討	国立国際医療研究センター 照屋 勝治
難治性疾患実用化研究事業	小児科学	教授	野上 恵嗣	自然抗凝固因子異常症とその凝血学的モニタリング 法に関する研究	九州大学 大賀 正一
難治性疾患実用化研究事業	総合周産期母子医療セン ター-新生児集中治療部門	病院教授	西久保 敏也	自然抗凝固因子異常症とその凝血学的モニタリング 法に関する研究	九州大学 大賀 正一
橋渡し研究プログラム	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	ナチュラルキラー T 細胞活性化による慢性炎症制御 に基づく新たな心不全治療の実用化	九州大学 筒井 裕之
成育疾患克服等総合研究事業	小児科学	助教	榊原 崇文	研究参加者の試料と臨床情報収集、追跡調査	国立精神・神経医療研究センター 伊藤 雅之
医工連携・人工知能実装研究事業	精神医学	准教授	牧之段 学	統合失調症の早期診断のエビデンスの創出	国立精神・神経医療研究センター 橋本 亮太
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	植込型補助人工心臓装着予定患者を対象とした出血性 合併症リスクの事前予測に基づいた個別化精密医療・ 最適化補助人工心臓治療の実現	東北大学 齋木 佳克
難治性疾患実用化研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	SJS/TEN の臨床病型分類	京都府立医科大学 外園 千恵
臨床研究・治験推進研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	患者レジストリを活用した筋萎縮性側索硬化症治療 薬開発のための第 2 相医師主導治験	京都大学 井上 治久

**(4) 国立研究開発法人 科学技術振興機構**

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	
戦略的創造研究推進事業 (CREST)	脳神経外科学	講師	田村 健太郎	脳表現空間インタラクション技術の創出	大阪大学・高等共創研究院 柳澤 琢史
戦略的創造研究推進事業 (CREST)	精神医学	助教	岡崎 康輔	仮想エージェントによる個人適応された情動社会スキルの訓練	奈良先端科学技術大学院大学 中村 哲
戦略的創造研究推進事業 (A-STEP)	脳卒中センター	病院教授	斎藤 こづえ	パーソナル小型脳動脈評価装置の開発	同志社大学 松川 真美

**(5) 公益財団法人全国競馬・畜産振興会**

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
日本中央競馬会畜産振興事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	東京大会における意図的異物混入対策事業

**(6) 公益財団法人エイズ予防財団**

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
エイズ中核拠点病院相談事業	感染症センター	助教	福盛 達也	HIV 感染者等保健福祉相談事業

**(7) 名張市**

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業

**(8) 厚生労働省**

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
2021 年度女性医療職等の働き方支援事業	女性研究者・医師支援センター	センター長	嶋 緑倫	2021 年度女性医療職等の働き方支援事業

**(9) その他 財団法人等**

団体名等	所属	職名	氏名	研究課題名
公益財団法人 小林財団	産婦人科学	助教	市川 麻祐子	リゾリン脂質経路を介した絨毛細胞機能への影響及び妊娠高血圧腎症の病理機序の解明
公益財団法人 喫煙科学研究財団	精神医学	准教授	牧之段 学	劣悪な小児期体験が惹起する炎症反応に対するニコチン抗炎症効果の検討
CSL ベーリング 株式会社	脳卒中センター	准教授	中川 一郎	脳梗塞急性期の神経保護薬の開発
CSL ベーリング 株式会社	輸血部	教授	松本 雅則	von Willebrand 因子と ADAMTS13 による脳梗塞血栓の解析
認定 NPO 法人 ゴールドリボン・ネットワーク	小児科	講師	石原 卓	小児急性リンパ性白血病の異なるプロトコール間での QOL 比較研究: JACLS 修正 ALL-02vs.ALL oriented protocol (JACLS QoALL-20)
CSL ベーリング 株式会社	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	CIDP との鑑別に重要な IgA 血管炎 (Henoch-Schönlein 紫斑病) に伴う血管炎性ニューロパチーとの臨床生理学および病理学的異同
一般社団法人 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	整形外科	医員	岡村 建祐	ヒト人工多能性幹細胞由来の骨形成細胞集合体による骨切り術後の骨癒合促進効果の検討
一般社団法人 日本糖尿病学会	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	レセプトビッグデータをを用いた 1 型糖尿病発症に関連する環境因子の同定
武田薬品工業 株式会社	小児科学	教授	野上 恵嗣	血友病に関する臨床検査のトレーニングプログラム (奈良県立医科大学版)
公益財団法人 喫煙科学研究財団	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	循環器疾患における喫煙習慣と炎症の病態解明: 臨床および疫学による多面的研究
公益財団法人 武田科学振興財団	精神医学	博士研究員	紀本 創兵	NPTX2 遺伝子を中心とする統合失調症の多層的な病態解析とバイオマーカー探索
公益財団法人 武田科学振興財団	発生・再生医学	助教	長岡 創	卵母細胞形成を支えるクロマチン高次構造の理解
公益財団法人 日本応用酵素協会	循環器内科学	助教	中田 康紀	心臓における p22phox の分子メカニズムの解明
公益財団法人 川野小児医学奨学財団	精神医学	学内講師	山室 和彦	発達脳と恐怖記憶の神経基盤の解明
Novo Nordisk Health Care AG	血栓止血先端医学	准教授	辰巳 公平	血友病 A に対する幹細胞ベースの同種異系細胞シート療法の開発
公益財団法人 武田科学振興財団	未来基礎医学	准教授	森 英一朗	生物学的相分離から明らかにする神経疾患の分子病態
一般財団法人 杜の都医学振興財団	感染症センター	助教	今北 菜津子	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 重症化におけるヒストン修飾酵素の役割の探索
一般財団法人 杜の都医学振興財団	感染症センター	医員	西原 悠二	Bacillus cereus が染色体性に保有するメタル β - ラクターマーゼ (bla II) の制御機構の解明
ジンマーバイオメット合同会社	整形外科	病院教授	谷口 晃	(教育助成金等に関する契約)
一般社団法人 日本血液学会	小児科学	講師	荻原 建一	凝固第 V 因子と組織因子経路インヒビターの新知見をふまえた包括的抗凝固機能評価方法の確立を目指した基礎検討
公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団	発生・再生医学	助教	長岡 創	卵母細胞高次ゲノム構造を規定するコヒーシオン複合体の制御機構の理解
一般社団法人 日本血液学会	輸血部	教授	松本 雅則	後天性 TTP (血栓性血小板減少性紫斑病) の動物モデルの開発
ジョンソンエンドジョンソン 株式会社	胸部・心臓血管外科	病院教授	澤端 章好	肺癌肺葉切除症例における葉間作成に用いた自動縫合器洗浄細胞診の臨床・病理学的含意を探索する
公益財団法人 SGH 財団	成人慢性期看護学	教授	田中 登美	がん薬物療法を受ける糖尿病を併せ持つがん患者のセルフマネジメント橋渡し支援の開発
ジョンソンエンドジョンソン 株式会社	整形外科	医員	川崎 佐智子	優れた力学特性と骨形成促進を両立させた高機能椎体間マテリアルの開発
一般財団法人 日本漢方医学教育振興財団	教育開発センター	教育教授	若月 公平	ゲーミフィケーションを利用した漢方医学教育
公益財団法人 アステラス病態代謝研究会	精神医学	学内講師	山室 和彦	視床室傍核でのオキシトシンが恐怖記憶にもたらす影響
一般社団法人 日本血栓止血学会	輸血部	教授	松本 雅則	後天性 TTP (血栓性血小板減少性紫斑病) のマウスモデルの開発
一般社団法人 日本血栓止血学会	産婦人科学	准教授	川口 龍二	がん関連血栓症における新規卵巣がんマーカー TFPI-2 の作用機序の解明
公益財団法人 先進医薬研究振興財団	輸血部	助教	早川 正樹	COVID19 患者の ADAMTS13 活性と VWF 抗原量、患者の重症度との関連性を解析し、患者の生命予後を推定するシステムの構築
公益財団法人 先進医薬研究振興財団	精神医学	助教	岡崎 康輔	小児期自閉スペクトラム症における医工連携バイオマーカー研究
公益財団法人 内藤記念科学振興財団	精神医学	学内講師	山室 和彦	ニューロモデュレーションによる前頭前野所回路ダイナミクスの数理モデルによる理解
公益財団法人 内藤記念科学振興財団	解剖学第一	講師	堀井 謹子	リスクアセスメント行動を調節する神経回路とメンタルヘルスとの関係性
一般社団法人 日本神経学会	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	神経変性疾患における相分離制御と分解機構の機能破綻

## 公開講座情報

### 第二回 難病克服支援WEBセミナー

**日時**：令和4年3月5日(土) 15:00～16:30  
**開催方法**：オンライン配信 (You Tube)  
**概要**：第1部 「犬と共に笑顔になる  
 介助犬による自立と社会参加」  
 高柳 友子 (日本介助犬協会専務理事)  
 第2部 「病氣と闘う子供たちが、明日を楽しみに  
 思える未来」  
 石黒 久美子  
 (東京女子医科大学小児科助教 小児神経科医)  
**対象**：医療従事者に限らず、どなたでも参加可能  
**申し込み**：申し込みURL およびQRコード  
<https://pro.form-mailer.jp/fms/11bc0acd243510>  
 事前申込必要  
 (締め切り：3月4日(金) 午前中)  
 参加無料  
**問合せ先**：奈良県立医科大学  
 研究推進課 阪田(内線 2552)



### 第17回 地域医療連携懇話会

**開催日時**：令和4年3月10日(木) 14:00～15:30  
**開催方法**：Web同時配信 (Zoom ウェビナー)  
 会場 厳櫃会館3階 大ホール  
**講演I** 「新型コロナウイルス感染症対策を振り返る  
 ー奈良県医師会2年間の軌跡ー」  
 安東 範明 (一般社団法人奈良県医師会 会長)  
**講演II** 「地域医療構想などの医療施策の現状とコロナ禍を  
 受けての今後の動向」  
 今村 知明 (奈良県立医科大学 公衆衛生学 教授)  
 座長：吉治 仁志  
 (奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室長)  
**対象**：医療従事者 (職種に関わらず参加可能)  
**申し込み**：申し込みURL およびQRコード  
<https://forms.gle/4XAbsfMw4MWGBrec9>  
 詳しくは地域医療連携室ホームページまで  
 事前申込必要 参加無料



### 第4回 わい和いNARA在宅サポート研究会 研究発表会

**日時**：令和4年6月4日(土) 10:00～15:30 (予定)  
**開催方法**：対面およびオンライン配信 (予定)  
**概要**：「ともにほぐくみ支える力  
 ～交流からうまれる多職種連携 いままでとこれから～」  
**講演者**：医療法人良翔会 訪問看護ステーションみそら  
 管理者 小林 千恵子 他  
**対象**：医療従事者に限らず、どなたでも参加可能  
**問合せ先**：わい和いNARA在宅サポート研究会事務局  
 (奈良県立医科大学 医学部看護学科 在宅看護学内)  
 TEL 0744-22-3051 (内線 2750、2760、2776)  
 E-mail ynarak@naramed-u.ac.jp  
 URL <https://www.naramed-u.ac.jp/~ynara/>

### 学報編集委員会からのお知らせ

#### ✎ 寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関すること、お知らせ等を掲載するため、これらに関連する記事を広く募集しております。

掲載を希望する記事がある場合は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は年4回発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



# 寄附者ご芳名

## 「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、令和3年12月末で累計3,693件のご寄附をいただいております。

なお、今号では、令和3年10月～令和3年12月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

### 【個人】

#### ◆100万円以上

秋田 雅弘 様	大植 睦 様	大鶴 昇 様
大西 英之 様	北村 弥 様	齊藤 正幸 様
斎藤 能彦 様	坂本 光章 様	吉原紘一郎 様

#### ◆30万円以上100万円未満

田谷令尹子 様	今村 正敏 様	大林 賢史 様
大林 千穂 様	河村 健二 様	吉川 公彦 様
桑原 理充 様	小山 文一 様	齊藤 弥穂 様
庄 雅之 様	新名 直樹 様	杉江 和馬 様
鈴木 裕 様	田中 利洋 様	田中 宣道 様
鶴屋 和彦 様	寺田 秀興 様	中嶋 敏勝 様
中森 孝文 様	新田 望 様	野上 恵嗣 様
橋本 浩 様	長谷川正俊 様	林 需 様
本田 伸行 様	鞠子 眞済 様	三上 洋 様
南 淳子 様	森永 太輔 様	山上 裕章 様
善本英一郎 様	米田 龍生 様	

掲載を希望されないご寄附者様 5名

#### ◆10万円以上30万円未満

浅田 潔 様	井内孝太郎 様	五十嵐稔子 様
生駒 一憲 様	石澤美保子 様	糸井 真一 様
伊藤 利洋 様	稲垣 有佐 様	上田 章雄 様
上平 悦子 様	植村 信子 様	上山 健一 様
鶴山 秀人 様	江里口雅裕 様	大塚智佳子 様
大塚 尚 様	岡田 治 様	岡田 祐一 様
岡本 忠幸 様	小川 宗宏 様	粕田 承吾 様
亀田 陽一 様	川口 昌彦 様	城戸 顕 様
木下 國浩 様	小味淵智雄 様	齊藤 正三 様
佐伯 圭吾 様	杉江 美穂 様	高橋 優三 様
竹邑 利文 様	田中 孝一 様	田邊 香 様
千村 貴幸 様	塚田 周平 様	築村 佳典 様
辻井 章 様	土井 涉 様	中川 一郎 様
中島 英彦 様	長瀬 一成 様	中田 荷葉 様
二階堂雄次 様	西 憲幸 様	西尾 健治 様
西川 義弘 様	西澤 秀美 様	西原 聖次 様
原田 稔 様	坂東 春美 様	細川 彰子 様
松井 一哲 様	松田 良介 様	丸山 直樹 様
宮崎 弘志 様	八木 正躬 様	山田千賀子 様
吉川 高宏 様	若月 幸平 様	

掲載を希望されないご寄附者様 28名

#### ◆10万円未満

浅井 達哉 様	井内 清美 様	池田 和之 様
五十川雅裕 様	伊藤 直 様	岩井 篤史 様
大倉 宏之 様	小川 佳宏 様	角谷 勇一 様
形岡 博史 様	狩山 純子 様	河野 悌司 様
北村 華奈 様	北村 紀文 様	北村 久子 様
北村 博之 様	北村 里奈 様	木村 満夫 様
行天 啓二 様	児玉 浩明 様	齊藤正一郎 様
鮫島 謙一 様	正島 良悟 様	多田 卓仁 様
辻之上和代 様	辻之上裕久 様	津田 恭 様
長瀬 善昭 様	長田 憲和 様	中野 章代 様
中平 毅一 様	丹羽 典子 様	浜崎 直樹 様
瀧田 薫 様	林 満博 様	細川 洋治 様
三宅 龍太 様	山佐 義行 様	山根 成悟 様
横谷 倫世 様		

掲載を希望されないご寄附者様 45名

#### ◆金額の公表を希望されないご寄附者様

石指 宏通 様	市地 春彦 様	井上 毅 様
井本 剛司 様	裏山 悟司 様	大庭 直樹 様
岡田 廣 様	面川 庄平 様	加輪上浩之 様
北島 正大 様	桐田 忠昭 様	倉井 信夫 様
齋藤 昌宏 様	潮見 満雄 様	島屋 正孝 様
下川 充 様	正島 千夏 様	杉山 友悦 様
高谷 恒範 様	高橋健一郎 様	高濱 潤子 様
高濱 誠 様	田中 忍 様	田中 暢洋 様
土田 容子 様	中井 敏幸 様	西村 忠己 様
沼畑 千晶 様	橋爪 隆 様	畠中 利英 様
原田 尚毅 様	北東 大督 様	堀江 恭二 様
前川 健二 様	前川 尚宜 様	松本 雅則 様
松元 蘭子 様	三浦 太士 様	美登路 昭 様
村澤 宏和 様	室 繁郎 様	森本 賢吾 様
藪本 明広 様	山中富美男 様	吉川真由美 様

### 【法人・企業】

前回の掲載分にて、金額の記載漏れがありました。大変申し訳ございませんでした。

#### ◆100万円以上

医療法人 二昌会 様  
医療法人 カワサキ内科 様

#### ◆金額の公表を希望されないご寄附者様

株式会社 奈良新聞社 様

ご寄附いただいた方のご芳名については、本学「未来への飛躍」基金HPにも掲載しております。

<https://www.named-u.ac.jp/~hiyakukikin/>



# Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2021年 9月8日	QLifePro 医療 NEWS	化学 教授 酒井 宏水	シアン中毒、既存薬より即効性の高いリボソーム型の新規解毒剤候補を開発
10月7日	毎日新聞	麻酔科学 教授 川口 昌彦	難病克服 映画で応援、オリジナル作品を募集し 2022年1月に「MBT映画祭2021」を初開催
10月13日	日経産業新聞	化学 教授 酒井 宏水	シアン中毒に新たな解毒剤、人工赤血球活用、即効性など確認
10月21日	NHK 出版 きょうの健康 2021年11月号	医学部長 嶋 緑倫	シリーズ難病に負けない! 血液の病気「血友病」
10月23日 10月30日	奈良テレビ 新型コロナウイルス感染防止対策の考え方とポイント 飲食店篇	感染症センター センター長 笠原 敬	飲食店で注意すべき、新型コロナウイルス感染防止対策の考え方とポイントについて解説
10月25日	医学書院 医学界新聞	看護部 師長 森川 祐美 医療情報部 部長 玉本 哲郎	看護記録の効率化で個性の高いケア提供をめざす 医師からみた PCAPS の利便性
11月2日	読売新聞	公衆衛生学 教授 今村 知明	衆議院選の争点となった今後のコロナ対策についてコメント
11月11日	ラジオ大阪 “新しいおとな”の朝に! 慶元まさ美のハッピー・プラス	地域医療学 教授 赤井 靖宏	〈早期診断・治療〉あなたが知らない糖尿病のホント 〈予防〉知らなきゃ損! 糖尿病合併症は防げます!
11月11日	ラジオ大阪 グッドアフタヌーン! #ラジオく	地域医療学 教授 赤井 靖宏 栄養管理部 係長 山口 千影	〈食事療法〉美味しく食べて糖尿病予防
11月11日	ラジオ大阪 Hit&Hit!	地域医療学 教授 赤井 靖宏 医療技術センター 係長 田中 秀和	〈運動〉糖尿病と悪化を防ぐ運動のコツ
11月11日	ラジオ大阪 hanashikaの時間	地域医療学 教授 赤井 靖宏	〈糖尿病に負けない〉糖尿病との正しい付き合い
11月17日 11月24日	NHKE テレ きょうの健康	医学部長 嶋 緑倫	シリーズ難病に負けない! 血液の病気「血友病」
11月17日	Medical Tribune	公衆衛生学 医科学研究生 中西 康裕	75歳以上では長寿ほど死亡前医療費は低い 奈良県の3万4,000例超の解析結果
11月17日 11月18日	産経新聞 JIJI.COM 他3社 エンタメ OVO	呼吸器内科学 教授 室 繁郎	世界 COPD デーのイベントでタレントの松嶋尚美さん、広陵町の山村吉由町長とトークセッション
12月13日	読売テレビ 朝生ワイドす・またん! & ZIP!	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 北原 紘	突発性難聴について解説
12月14日	毎日新聞	免疫学 教授 伊藤 利洋 微生物感染症学 教授 矢野 寿一	柿タンニン(柿渋)が「重症化防ぐ」 ハムスターで確認
12月20日	NHK ニュースほっと関西	精神医学 助教 盛本 翼	大阪北区の火災に関連して、精神科が行う「リワークプログラム」の内容についてのインタビュー
12月21日	関西テレビ 報道ランナー 読売テレビ かんさい情報ネット ten.	小児センター 病院教授 朴 永銖	乳幼児頭部外傷例に対する、児童相談所が求める専門家意見について小児神経外科の専門家の立場で問題点を指摘
12月24日	奈良新聞	微生物感染症学 教授 矢野 寿一 助教 中野 竜一	デルタ株を不活化 やまと真空工業とマスクを共同開発
2022年 1月1日	現代奈良協会 月刊奈良	がんゲノム・腫瘍内科学 教授 武田 真幸	がんゲノム医療に向けた取り組みについてインタビュー
1月9日 1月10日	読売新聞 毎日新聞 奈良新聞デジタル		難病克服を支援 MBT 映画祭初開催 橿原で200人鑑賞
1月11日	NHK 奈良 ならナビ 奈良テレビ 県政フラッシュ		MBT 映画祭と杉江和馬教授(脳神経内科学)のインタビュー放送
1月11日	中日新聞	呼吸器内科学 教授 室 繁郎	COPD(慢性閉塞性肺疾患)についてコメント
1月15日	読売新聞	公衆衛生学 教授 今村 知明	感染症流行を見据えた医療体制についてコメント
1月28日	リビング大阪	皮膚科学 教授 浅田 秀夫	带状疱疹の原因、症状、治療、予防法などを解説

メディア掲載情報をお寄せください

秘書・広報室(総務課)内線:2206

## 編集後記

皆様のご協力により第79号学報を発行することができました。ご協力・ご支援いただいたみなさまに深く感謝いたします。

新型コロナは第6波が襲ってきました。状況は日々刻々と変化しますが、引き続き皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

